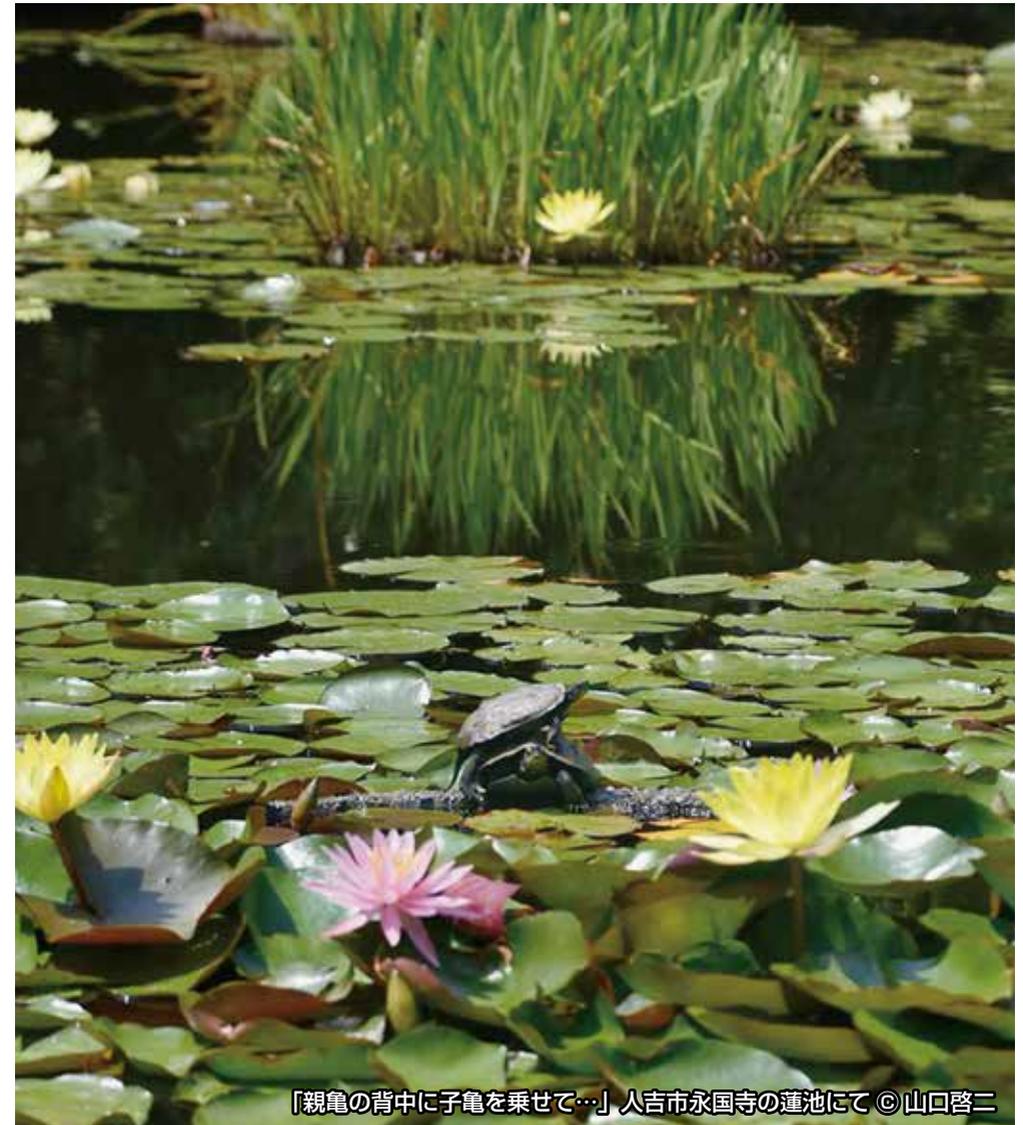


流域の人々と歩む月刊誌

くまがわ春秋

2019
7
第40号

やっちろドラゴントレイル



「親亀の背中に子亀を乗せて…」人吉市永国寺の蓮池にて ©山口啓二

火の国、水の国、
焼酎の国。

球磨焼酎

球磨焼酎
緋月



球磨焼酎
宇梶剛士



世界的な品評会で
金賞を受賞いたしました。

Los Angeles
Wine & Spirits
Competition 2019



飲量は20歳未満までから、飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を及ぼすおそれがあります。

緋月酒造株式会社
http://www.sengetsu.co.jp/
〒886-0052 熊本県人吉市新町1番地

月刊 くまがわ春秋 第40号 2019年7月15日発行
企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
TEL 0966-23-3759 / FAX 0966-23-3759
http://www.hiyooshi.co.jp/ info@hiyooshi.co.jp

定価 **540円** 本体 **500円**

雑誌 81779-07-9



4910817790796
00500

最近のおもな出来事

- ▽6月20日(木)
 - ▽人吉観光案内協会総会(鍋屋本館)
 - ▽人吉方言例会「黒田晋也(テノール)・小林晴美(ソプラノ)・榎本潤(ピアノ) おしゃべりコンサート」(人吉市カルチャーパレス)
 - ▽金子飛鳥(ヴァイオリン)&林正樹(ピアノ)デリシアジャパンツアー(ひとよし森のホール)
- 6月23日(日)
 - ▽青井阿蘇神社国宝記念館建設チャリティー「人吉球磨歌謡フェスタ2019」(人吉市カルチャーパレス)
- 6月30日(日)
 - ▽第47回球磨郡青年団協議会体育祭(あさぎり町免田総合グラウンド)
- 7月4日(木)
 - ▽参議院議員選挙公示
- 7月5日(金)
 - ▽「お下の乱」追悼式(人吉城歴史館そば同供養碑)
- 7月7日(日)
 - ▽「侍」SABURAU「ITALY」凱旋展(青井阿蘇神社)
- 7月14日(日)
 - ▽芳野とゆかいな仲間たち「おどん達も応援団」チャリティーショー(あさぎり町須恵文化ホール)

7月(第40号) 目次

- 柳人があじわう漱石俳句④⑩ いわさぎ楊子…5
- くまがわの神さん仏さん③⑤ 宮原信晃…16
- 記憶の落ち穂③⑨ 坂本福治…19
- 建築みてある記③⑤ 「光徳寺」森山 学…20
- おっとわっとあすび③⑩ 松舟博満…25
- 「あがつ段」②⑦ 上杉芳野…26
- 山に行こうよ!①⑨…28
- 「西道庵先生」の実像を追って①⑨ 那須智治…29
- 鶺鴒短歌会…35
- 坂本の製紙工場小史⑤ 上村雄一…36
- 人吉藩の借金と江戸経費節減計画①⑨ 尾方保之…40

巻頭企画

- さかもと国際児童画展に寄せて 上村美鈴…3
- ツクシイバラの一年 桑原史佳…6
- やっちろドラゴントレイル つる詳子…8
- 天草の石工について 上村和代…12

今月の一言

『文読む月日』(レフ・トルストイ編著 北御門二郎訳)より

他人の眼を借りてはじめて、われわれは自分の欠点を見ることが出来る。
(中国の諺)

表紙写真

「親亀の背中に子亀を乗せて…」

(人吉市永国寺の蓮池にて)



まだ梅雨入りしてもいない6月20日、私が担当している写真講座の撮影会での一枚。

ちなみにこのタイトルは明治の流行歌「ラッパ節」の歌詞の一節で、『…そのまた背中に孫亀(ひまご)を乗せてそのまた背中に曾孫(ひまご)を乗せて親亀こけたら皆こけた』と続くらしい。

撮影/山口啓一(人吉市)

- ひろしの…げっかん・ぎひょう…50
- 外来語から学ぶ英単語④⑩ 藤原 宏…50
- 那須良輔と北御門二郎⑦ 村木正則…51
- 漢和字典は面白い②③ 鶴上寛治…53
- 仏教を救った僧侶「黙雷」⑥ 富永和信…54
- 砂時計―思い出るままに⑨ 小野武己…57
- 倉敷便り③⑩ 絵と文/原田 正史…60
- 小説・相良清兵衛⑩ 山口啓一…62
- 字図で見る球磨の地名⑩ 上村重次…68
- Facebook 華文俳句社…71
- 方言を味わう③⑤ 前田 一洋…72
- 前号「くまがわ学習塾⑩の答え」…74
- お休みどころ通信⑧ 興野康也…75
- 現代社会の基礎用語①…76
- いも短歌会…78
- くまがわ学習塾⑩…79



本誌の
取扱店舗

■清藤書店 ■ブックスミスミ ■明屋書店 (錦店・免田店・多良木駅店)
■道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店

真夏の東京オリンピック

2020東京オリンピックは、来年7月24日から8月9日の猛暑のもとで開催される。高校球児の甲子園出場選考会と時期が重なる。高校球児が大丈夫だから、オリンピック選手も頑張れるといった単純すぎる意見などない。甲子園球児も暑さ対策が課題になっている。オリンピックの商業化にともない、開催時期が夏場になったことは周知の通り。10月開催では、バスケットボール・アメリカンフットボールなどの開催と重なるためアメリカの放送局が困るというのだ。開催維持のために、そうした事情も考慮せざるをえないとの意見もあるが、そのことと、熱中症対策を重要な課題としてつ猛暑の時期に大会を開催することは別の問題だろう。これについても山ほどの意見が既に出されている。今後出されるだろう。

大会直前のため、いま、資材・人件費など工費が高騰している。これも予想されたこと。大会後に景気が落ち込むことも誰もが予想している。昭和39（1964）年のオリンピックのとき、じつさい、そうであった。翌年40年には赤字国債を発行せざるをえなくなったのだ。それでも前回は高度経済成長の時代で、赤字国債はさほど話題にならなかった。当時は消費税もなかった。少子高齢化問題を考える必要もなかった。

オリンピックのあとには、パラリンピックがつづく。パラプレジア（下半身麻痺）とオリンピックを合わせた造語である。1988年ソウル大会から「パラリンピック」は正式名称になった。国際的にも比較的最近になって、障がい者に光があるようになるようになったといえよう。パラリンピックは8月25日から9月6日まで開催される。残暑厳しい時期で、オリンピックと同じ課題をかかえている。

去年の夏は暑かった。熱中症予防のためクーラーの利用がはじめて喧伝された。今年も暑い。クーラーは必需品になった。来年はどうか。冷夏ならいいわけではない。冷夏は農作物に被害をもたらす。人間の都合に合わせ自然は存在するわけではない。

（春秋）

巻頭言

子どもたちの夢とともに —さかもと国際児童画展に寄せて

実行委員会 上村美鈴

二〇一七年にスタートした「八代 管されている前二回の絵は、併せて
市さかもと国際児童画展」は、お 約千八百点あり、今後開催される
かげさまで多くの賛同を得て、今年 チャリティー巡回展などに活用され
九月に三回目の開催を迎えます。 る予定です。
主催者の坂本住民自治協議会に保 今年もまた六月初旬から募集を



ブルガリア 6歳 女 (2017)



アメリカ 7歳 男 (2017)



八代市 5歳 女 (2017)

開始して、随時関係各方面にご協
力をお願いしていますが、その中に
毎年絵を集めて送ってくれる長野県
売木村の國分紘子さんがいます。早
速、六月半ばには返事のメールが来
ました。

「チラシ届きました。売木小の先
生にお届けしましたよ。タイのひと
みさんにもお願いしました。売木の
子たちは去年は物語付きだったけ
ど、今年はどうな絵を描いてくれる
か楽しみ。できたら送りますね」

紘子さんは古くからの仕事仲間
で、初回から協力を申し出て、村
内だけではなく、村外、村出身の
海外居住者にも声をかけてくれま
した。

売木村の人口は坂本町よりはるか
に少ない約六百人。売木村小中学

柳人があじわう漱石俳句

— 40 —

いわさき楊子



柳人とはだれ？

このページのタイトルに「柳人があじわう…」とあるが、まさか「りゅうと」という人の名前だと思われてはいないかと40号にもなって気になってきた。川柳は柄井川柳という点者（句の選者）が江戸時代に実在したところからその名が始まる。つまり柳人とは俳句を詠む人を俳人（はいじん）がごとし。

一般的に川柳は時事的なものや笑いや皮肉を入れて詠んだものだとして理解されている。そのとおりには違いないのだが…。川柳を語るには紙幅が足りない。

とぶ蜚柳の枝で一休み

（漱石24歳）

柳とあればここにあげないわけにはいかない。

蛩も蛙も人間も柳の木の下で休む。ゆらゆらと休んでから、尻を光らせたり古池に飛び込んだ

校の在校生は四十人。その中には山村留学の都会の子供たちもいます。

というのも、この村は三十五年前に日本で初めて山村留学制度を取り入れ、現在までに約三百七十人の子供たちを預かつて送り出している有名な教育村なのです。絃子さんは留学生OBにも呼びかけてくれました。

絃子さんは現在八十二歳、東京の元タウン誌編集長で、児童書の翻

訳や障害児の絵本を手がけ、山村留学の著書があります。十年ほど前に、東京谷中から売木村に移住、

最近地元元若者たちと熱気球のイベントを企画するなど、現役バリバリのプロデューサーでもあります。

そういう訳で、昨年は売木村とタコのチンドンバンドの二つの学校から合わせて六十点ほどの素晴らしい絵が届けられました。私たちがいつか坂本町の学校と、この二



今年の「さかもと国際児童画展」作品募集のチラシ。左は英語版

つの学校との交流ができると思っています。

そして売木村やタイ国同様に、今年も八代市内をはじめ、熊本県内外、海外からもたくさんの子供たちの絵が寄せられますよう、ぜひ皆様方のご協力をお願いします。

更にこの子供たちが大きくなって、坂本町に保管された自分の絵に会いに来るということ、その日まで坂本町の後輩たちが児童画展を継続し、このたくさんさんの絵を大切に守ってくれるということを願っています。

今年のテーマは「私の夢」。子どもたちの夢とともに、大人たちの夢も必ず叶いますよう心から祈っています。

【うえむら・みすず／八代市】

りする。人間は栄養ドリンクをおおつてまた営業へ。若くてまだ俳人でも文学者でもなかった漱石先生はヤバイ、もとい、おもしろすぎる。

もう寐ずばなるまいなそれも夏の月

（漱石29歳）

日常のひとりごといきなり夏の月がついている。しかも破句、字余り。こういう俳句は明治時代にはあまりなかったのではないだろうか。漱石のやんちゃな詠みがきわだっている。白緋に兵児帯をかけた金之助先生が文机を離れて月を見あげる姿が目につかぶ。学校の先生の持ち帰りの仕事は今も昔も同じか。五高の英語の教師になって、そして結婚後ほどなくのころに子規へ送った四十句の中の一句。

良い傘はゴミを出すときにはさよならね

背骨から煮くずれやすい回遊魚

ジャンプした位置から客を見るイルカ

【いわさき楊子／川柳と俳句の愛好家、熊本市在住】

ツクシイバラの一年

球磨川ツクシイバラの会会長 桑原史佳



球磨川ツクシイバラの会のメンバー

ていました。参加者から「自生地の中に人がはいれるような小径を作っては」とのご意見をいただきましたが、小径ができたなら車道ができるかもしれない、そうなれば新芽をつぶしてしまうかもしれないという懸念があったので、2月の作業のときにこれから当分の間、おもてなし広場一帯は機械を入れず手作業で行うという方針を会から参加者に伝え、始まりました。刈り払い機を持って来られた方たちには、水門の東側の作業をお願いしました。

また、数年前に伐採した竹がずいぶん増えてしまったので、切っていたできました。少人数での作業でしたので、なかなかかどりませんでした。が、これからも地道な作業を続けて、ツクシイバラの開花を迎えたいと決意した2月でした。

「花はいつ咲きますか?」「毎年花を見に行くのですが、去年は早すぎました。一昨年は遅すぎました。今年はいつ行ったら満開が見られますか?」「花とあなた達に会いに行きますよ」―開花前になると、県内外からこのような電話やメールの問い合わせが増えてきます。今年は梅や桜などの開花が早かったので、早く咲くのではないかな? と思いつながら、今季の開花前の準備が始まりました。

また、球磨工業高校と二武小学校の生徒の皆さんに協力いただいて完成した新しい環境保護プレートも一帯に設置しました。枯草の自生地が華やいで見えました。

3月はいろんな行事と重なり、参加者が少ないだろうなと思っていました。遠方からも来てくださったりしてとても嬉しかったです。例年より暖かい朝で、汗ばむくらいでした。とても気になっていた竹林の二つをきれいに切ってくださいました。

新芽が空に向かってぐんぐん伸び始め、もうすぐ花に会える嬉しさで、私たちの気持ちが高まっていきました。作業後のお茶うけのスタッフ手作りの漬物とゆで卵がとてもおいしかったこと!

4月は濃い霧の中始まりましたが、始める前に遠山事務局長から咲き始めたノイバラと比較しながらツクシイバラについてのレクチャーを受けた後、作業を開始しました。作業の途中から霧が消え始め、後半は汗ばむくらいの暑さになりました。

ツクシイバラの新芽がぐんぐん伸びていました。4月後半あたりから見ごろになるノイバラが終わったら、ツクシイバラのシーズンが始まります。

そして5月12日、開花直前の最後の作業でした。

午前8時にはすでに暖かく、暑くなるだろうなと思いつながら作業を始めました。

おもてなし広場周辺には例年より早い4月末から咲き始めたツクシイ

バラがポツリポツリと見られました。

翌週末からおもてなしが始まるので、前日に錦町役場職員さんが運んでくださったテント、テーブル、椅子をセットしました。作業が終わってから、参加者の皆さんの「よけまん(おやつ)」は、テントの中で「プレおもてなし」をさせていただきました。

簡易トイレを役場で、ライトアップの準備を同会スタッフの横井さんに準備してもらい、5月18日からおもてなしがスタート、様々なイベントも行いました。

そして7月、「熊日緑のリボン賞」受賞という、うれしいお知らせが届きました。私たちの小さな活動に目を向けていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

【くわはら・ふみか/球磨郡錦町】

応援に来て下さい！

やっちょろドラゴントレイル 8月11日坂本町で開催

しる様子

坂本の八竜山、八代の竜峰山、竜ヶ峰の3つの山を駆け抜けようというトレイルランニング（YDT）を企画した若者たちがいます。どういふ思いで、この往復50kmという山岳コースを走るのか、このイベントの趣旨や彼らの思いを聞いてみました。

舗装道路を走るマラソンと違って、トレイルランニングは山岳部の登山道を行います。また、装備をほとんど持たずに走るクロスカン

トリーとも異なり、トレイルランニングでは専用の小型リュックサックに、飲食物や必要な装備を入れて走ることが普通のようなです。100kmを超える長距離のレースから、10km程度の短いものまであり、最近では日本でも多くのレースが開催されています。

やっちょろドラゴントレイルとは

これらのレースに参加経験がある八代内外に住む若者たちが企画し

た今回のトレイルラン。走ってみようと思っただけは、坂本町から日本最古の恐竜の骨が出たことで、地元の山に興味をもったことです。考えてみると、八代平野に並走するように、八竜山、竜峰山、竜ヶ峰と竜がつく山が多いことにも、大きな興味が湧きました。

サポーターに提供されたペットボトルを道端に放棄していくマラソンとは違うという自負を持つ彼らの環境問題への一番の関心事は、海や川のプラスチック汚染です。恐竜の骨



ドラゴントレイル実行委員会のメンバー

から生まれた「竜」への関心が、水の神様の使いともいわれる竜神様からのメッセージに思えたのも、当然のことでした。走ることで、水が結ぶ山―川―海のつながりやそのメッセージを伝えたい。そんな思いで、8月11日に向けて、彼らは走り出しました。

スタート地点に選んだのは、坂本町鶴喰の「憩いの家」。ここから、渋利経由で八竜山頂上を目指し、今泉に下ります。そこから西部大橋を渡り、袈裟堂から上宮を得て、八代市妙見町に抜けます。東町777段の階段を上ると、北へ続く尾根を上り下りし、竜峰山へ。そこから更に北の竜ヶ峰を経て、

東陽村の運動公園まで。ここが折り返し地点で、元来た登山道を引き返します（図①・図②参照）。

スタート・ゴール地点に鶴喰を選んだのは、今年の箱根駅伝の優勝校東海大の5区で区間2位の走りを見せた西田壮志選手が坂本中学校時代、この八竜山のコースを練習コースにしていたことからこのことです。

8月11日という真夏に、50kmの山道走るなんて、とても考えられません。コースと予想タイムをみると、ますます信じられません。しかし、今回の40名弱の参加者は、ほぼ経験者。今回の企画をした「やっちょろドラゴントレイル実行委員会」の代表吉田諭祐さんも、ウルトラトレイルマウントフジ100マイル

近代工業を支えた 天草の石工について

上村和代

本誌第38号「坂本の製紙工場小史(3)」の中で、上村氏は坂本工場が近代工場となる前提条件のひとつに「建物の建設」を挙げている。

大量生産のための大型機械を設置し稼働させるには、工場の建物が堅牢であることは必須である。そのため、木造土壁の日本建築ではなく、煉瓦造りで石材を使った建築が選ばれたのだろう。工事にかかわった石工は、大工や左官よりも多く、延べ2万2588人にもおよぶ。工場建設において重要な役割を果たしたはずの石工たちだが、

「これらの人材を地元で確保するこ

とはできなかったはずである。それらの人材をどのようにして確保したのか確認したいが、その資料は残っていない。建築資材もそのすべてを地元で用意できたか問題になるが、石材が天草産であったことを除き、確認できない。」という状態で、石工については謎に包まれている。

私は最初、坂本の工場建設に携わった「石工」を種山石工かそれに関わりのある石工ではないかと思っていた。しかし、上村氏から助言をもらったり、自分でも調べて行くうちに天草の下浦石工ではないかと思うようになった。以下にその根拠を紹介する。

記録によると坂本の工場建設に使われた石材は「天草日嶽石」とある。現在、地図上で調べた限りでは天草に「日嶽」という地名を見つけないことはできなかった。石材として流通している石の名称は主に「産地名+石」である。同じ地方の石でも石切り場によって呼び名が異なることも多い。例えば人吉城の石垣に使われた石はほとんどが安山岩であるが記録上では「矢黒石」や「山田石」である。現在の人吉市矢黒町付近の石切り場や、山江村山田の石切り場から出た石がそのまま名称として記録されているのだ。

また、高級石材として知られる香川県産の「庵治石」の産地は、庵治ではなく隣接する牟礼である。庵治港から全国へ出荷されたことから定着した名前である。坂本の工場建設

にも天草から石材を運ぶには船が使われたと考えるのが妥当だ。そう思うて見ると、八代港の対岸には牟田港があり、近くには白嶽がある。もしかすると「日嶽石」は「白嶽石」ではとも思えるが、大きく天草産の石材としておく。

天草地方の石と言えば、陶器の材料である天草陶石や刃物を研ぐ天草砥石がよく知られているが、鳥居や狛犬、墓石などの石造物や建築材料に使われた石には「下浦石」がある。

下浦石は天草上島の南西端、現在の天草市下浦町周辺で採れる砂岩である。石の中では比較的柔らかく切り出しや加工がしやすい。この下浦石を材料に江戸時代から昭和の初めまで八代海沿岸から長崎、有明海周辺まで広く活躍したのが下浦石工である。

宝暦10(1760)年頃、下浦に移り住んだ肥前白石(現在の佐賀県白石町)出身の元武士、松室五郎左衛門が石材加工の高度な技術を伝えたことにより下浦の石材業が発展し

たとされる。下浦の石工たちは海運と結びついていったようで、天草地方だけでなく玉名や熊本市内、芦北水俣、鹿児島県長島などでも下浦石製の石造物が確認されている。海を使って流通していたのは製品だけでなく、石工たちも八代海・有明海沿岸で広く活躍していたようである。

幕末には、長崎の外国人居留地で天草出身の小山秀(秀之進)により多くの西洋建築が建てられた。小山は地元天草の石を建材として多く取



湯出神社の狛犬(水俣市湯の鶴)の台座に「石工 刻者 天草郡 下浦村 黒川若松」との銘がある



下浦石工・黒川若松の銘。熊本市の高橋稲荷鳥居や八代市住吉神社の鳥居も若松作である

り入れており、グラバー邸のテラス縁石や庭石、オルト住宅・リングア住宅の壁体石やベランダの石柱などに下浦石が使われている。小山が手掛けた仕事は個人住宅だけではない。大浦天主堂の基壇やオランダ坂の石畳などにも下浦石が使われており、下浦の石工たちが腕を振るつたとされる。

さらに大きな仕事では、明治26年に完成した三角西港の石積み埠頭も下浦石工によるものである。ここでの石材は現場近くの登立や飛岳石が使われている。

このように天草産の下浦石と下浦石工は、同時代の九州では西洋風建築の建材と技術者としてよく知られていたと思われる。

坂本の工場建設にかかわった人物で、東肥製紙株式会社社長も務めた

このほか宮崎県にまでおよんでい。下浦石工を祖先とする石工のつながりが九州全土に広がっていたのである。大きな仕事を請け負ったおりには、「下浦石工」の名で広く動員をかけることもあったと思われる。

坂本の工場建設では建物だけでなく水路建設にも石工が携わっていたという。水漏れするようでは問題外であり、精密な加工技術が必要とされる。三角西港の建設では、オランダ水理工師ローウェンホルスト・ムルドルの設計により、全長756メートルの石積み埠頭が作られた。日本の石垣とは大きく異なり、曲線を多用したムルドルの設計を形にするには高度な技術と緻密な作業が必要であったと思われる。下浦石工にはそれだけの腕があったのだろう。坂本

藤村紫朗は、山梨県令であった14年間に100軒以上の洋風建築を造つたことで知られている。その藤村がグラバー邸や大浦天主堂などの建築にかかわつた下浦石工のことを知らなかつたはずはないと思ふ。

製紙工場建設は1年8ヶ月という短期間にのべ2万人以上の石工を使って20棟もの建物が建築されたとあり、大勢の石工と大量の石材が必要とされた。下浦石は、西南戦争の政府軍戦没者を弔う官軍墓地の墓石や周辺柵の基礎石にも使われている。官軍墓地は熊本・宮崎・鹿児島等の九州南部の広い範囲に点在する。明治政府にとつて、戦没者の弔いは威信をかけても早急に整備する必要があつたはずであり、墓石などの品質についても一定以上の水準が求められたはずである。政府からの大

の水路にもそうした技術が活かされたのではないだろうか。水路はその後時代とともに石からコンクリートになり、鉄製パイプに置き換えられて、今では写真があるのみで、どのような構造だったかについて詳しい資料が残っていないのは残念である。

このように、明治30年頃に近代的な工場を建設できるだけの技術と経験があり、人材と建築資材（天草産石材）を提供できた職能集団という条件を考えると、下浦石工の名前が浮かぶのであるが、資料のない状態では憶測にすぎない。

現在、下浦石と石工については歴史文化的両面から注目が集まっている。平成27年「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録されたことで構成遺産である旧グラバー邸、三角西港や端島（軍艦島）の防

量発注にも応じることができただけの体制が、下浦には整っていた証拠ではないだろうか。

石工の手配については、下浦だけで延べとはいえ2万人以上の職人を集めるのは難しく思えるが、それを可能にするネットワークが下浦石工にはあつたと思われる。先に述べたように、海運を使って九州各地に広がっていた石工たちは各地で弟子を育て「のれん分け」を行っていたようである。下浦神社境内に建立された「皇紀二千六百年記念碑」の台石に彫刻された寄付者の居住地と人数を見ると、

熊本県 熊本市内16名、水俣5名、川尻4名、八代3名、高瀬3名
長崎県 22名
鹿児島県 川内5名、阿久根4名
福岡県 羽犬塚3名

波堤建設にかかわつた下浦石工が再認識されることとなった。重ねて平成30年に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録され、重要な構成資産である大浦天主堂建設にも下浦石が使われていることから、下浦石工についてますます関心が高くなっている。この機会に研究が進めば、坂本の製紙工場との関連も見られるかもしれない。

【うえむら・かずよ／人吉市】

参考文献

- ・「石をつぐもの〜下浦石工ものがたり〜」マンガ岩田紘典 原案橋本博 発行天草市観光文化庁文化課
- ・「鳥居にみる天草下浦石工の活動」時松雅史
- ・「天草下浦石の歴史と海を介した流通」中山 圭

くまがわの神さん仏さん 35 庚申塔を愚考する —どんな時に庚申塔を建てるのか—

宮原信晃

人吉市内の鍛冶屋町に「多子塔」という石碑が建っている。毎年旧暦

6月1日にこの多子塔の前で神事が執り行われ、子供たちや鍛冶屋町の



多子塔（人吉市鍛冶屋町）

人達が夏祭りを楽しんでおられる。「多子塔」は「庚申塔」であり、同じものといわれている。今年の祭り当日（7月3日）、人吉市内に警戒レベル4の避難勧告が出て、この祭りが14日へ延期された。ここで「多子塔」や「庚申塔」についての愚考を述べる。

まず、「庚申塔」とは何だろう。60日に1日だけ、お堂に入ってから早朝のニワトリの声を聞くまでみんなで一緒にいる。そうしないと、天罰が当たり、寿命が縮んだり災いがくるといふ昔の信仰なのである。人吉球磨の人達はこぞってお堂にもついていた。

人吉市内に126基もの庚申塔がある中で、一番多く建てられたのが「宝永年間」（1704～1711

年）。この8年間で10基も庚申塔が作られた。普通は10年に1基ほどが建てられたのが何故、この時代に多く建てられたか？ どんな時に庚申

塔は建てられるのか？ が、はつきりわかる時代でもある。

宝永の年号になり、霧島連山高千穂峰御鉢の噴火、桜島の噴火、浅間山の噴火、そして、今でいう南海トラフ巨大地震（宝永の大地震）が起こり、海より遠い、私達の人吉城も崩れた（1704年）。その49日後には、何と富士山の噴火が起きたのだ。翌年、浅間山が連日噴火。また、翌年には阿蘇山も噴火したのだ。恐怖の時代、そんな時だからこそ「庚申塔」は数多く出来た。

さて、庚申は信仰であるから他の信仰と一緒にしたという。中国では道教と仏教が習合したように、人吉ならば、地蔵と庚申が一緒になった。「出町地蔵」が「出町庚申地蔵」となった。「阿弥陀」「釈迦」「青面

金剛」「猿田彦神」と「庚申」が合体して江戸時代の人々は5人組の監視のもとで、見張ったり見張られたりして、「くく庚申」のお堂で一夜を過ごした。「庚申」の夜に、子供を宿したら、手の長い子供が出来て、泥棒になり悪い大人になるともいわれたようだ。

さて、鍛冶屋町の「庚申塔」にもどうだろう。この庚申塔は一般の庚申塔とは異なっている。多子塔という庚申塔は他にも昔はあったそうであるが、この庚申は、全く異なる表現が付く。

「咄く庚申」なのだ。庚申の頭に「咄」（トツ、トチ、しかる）が付く。これは何なのだろうか。益田啓三さんにお聞きすると「坊さんが、かつーて、おめきなっでしようが、あれたい」、だ

たしとう
多子塔

この多子塔は1647年（正保4年）に建立されました。その頃は、関ヶ原の合戦から半世紀近く経った3代将軍徳川家光の時代で、人吉藩では21代相良頼寛が藩を治めていました。

多子塔の銘は願成寺町に所在する観音寺第17世南隣和尚が書いたもので、当時、疫病の流行で亡くなった多くの子供たちの冥福を祈るため、建てられた碑であると言われています。

多子塔は庚申塔であり、庚申信仰の一つと考えられています。このように多子塔と銘された庚申塔は人吉球磨の他の地域にも存在していましたが、現存しているのはこの鍛冶屋町だけです。毎年旧暦の6月1日に行われている祭りは「多子塔公の夏祭り」として親しまれています。

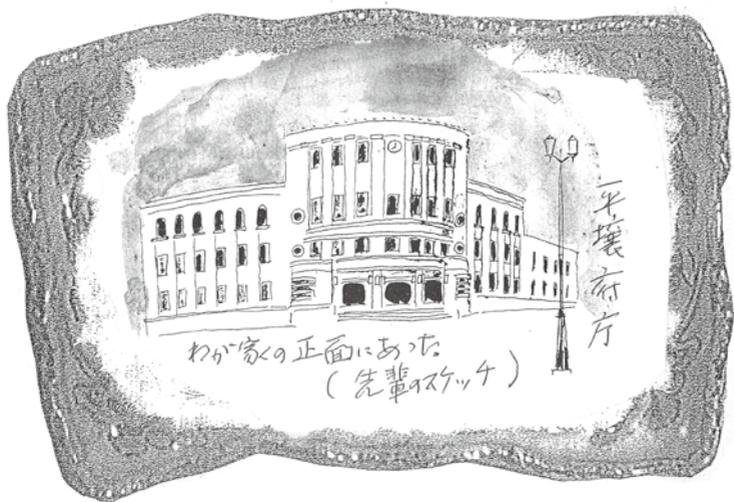
2006年 人吉市

夏祭りの様子

記憶の落し穂

その 39

絵と文／坂本福治



ある終戦時の校長

昭和二十年の夏、平壤の府庁の裏に、私に通った小学校があった。役員の子どもが多く、学習院と先輩たちは言った。校長は森山英雄。朝礼の時は毎回ルーズベルトとチャーチルの話が出た。「あの高い鼻を折ってやらなければならぬ」と。そして八月十五日、私たちにはまさかの敗戦を迎え、物の価値がひっくり返った。

小学三年の時だった。自分の国とばかり思っていたのに、よそ者になり、何が何でも出て行かねばならなくなった。置いてきた教室には、見たこともない軍艦を描いた私の絵が、額入りでかかっていた。森山校長の里は、佐賀の塩田町だったが、親族たちは裕福だったらしい。あまり助けてくれず、引揚者のために配られた物を受けると、「乞食みたいなまねをするな」と言われ、苦しい生活をされた。教職に就けば生活は楽になるが、私は子どもにもウソばかり言ってきたからと、復職はされなかった。後に私が同窓会を作ったのを大変喜ばれ、ご夫婦で温泉に招待して下さった。

【なかもと・ふくじ／画家、人吉市】



そうである。何で、お坊さんが、かつつーと唱える文字をここに入れたのだろうか？ この多子塔の説明文には「多子塔の銘は観音禪師第17世南隣和尚が書いたもので、当時疫病の流行で亡くなった多くの子供たちの冥福を祈るため建てられた」とある。子供の供養に「咄」は何故か？ この正保4(1647)年頃は、人吉の人達は何を心配していたのか？が気になる。

先ず、この7年前には「御下の乱」(相良清兵衛の一族滅亡)で121名が惨殺。今の人吉城歴史館の場所である。

7月7日がこの大事件の日である。それから、この「咄く庚申塔」が出来た2年前の正保2年には、「村上左近の乱」で村上家一族70余名が惨殺された。村上家も滅亡されたのだ。

お殿様の動きや考え、名家の主張、江戸幕府からの視察、寺院の思考など、想像すればきりが無い大事件の数々である。庶民はなにを考えたか？なにを信じなにをしたのか？それは、今も昔も同じこと。

「平穩」ではなかったか。

お家騒動は、人吉藩全域に影響し、敵味方に分かれて、庶民もまきぞえを受ける。

そこである。職人町、職人氣質の鍛冶屋町の町民は、「何ということをするのか！何百人も殺して、一族を皆殺しにして、この人吉藩は、どこ

に向かおうとしているのか？」で、「咄くー」を付けたのだろうと思つた。みなさんは、どうみえますか？

【追記】

鍛冶屋町在住の村上茂憲さんから「多子塔祭りは旧暦6月1日に行われ、旧暦6月の最後の祭りが青井阿蘇神社の夏越し祭りです。鹿児島では7月に夏祭り六月堂(六月灯ともいう)があり、人吉でも薩摩藩の統治下にあった時代があり、その名残りがあつた時代が考えます。現在でも古くから伝統を守っているのは多子塔さんと青井さんだけです」とお話を伺いました。

【みやはら・のぶあき／FBお地蔵さん調査隊代表・人吉おおくま座の会事務局】

光徳寺をあるく

森山 学



写真① 手前が冠木門。奥が山門。壁の花模様のシルエットが花狭間

八代の旧城下町の出入口、松江口番所の付近に出町という町がある。城下町の総堀の外側に位置しているが旧町人地である。弓なりにカーブする旧薩摩街道に沿って、長さは二〇メートルほどだった。出町から細い川を越えると足軽たちが住んでいた鉄砲小路があり、その先に出町番所があつて、さらに松馬場が続いていた。

出町は城下町の入口を固める重要な町であつた。そこに位置するのが長年山光徳寺である。まさに城下町の松江口番所の要といつていい。

今回はこの光徳寺を歩きたい。付近に「出町」バス停があり、「八代駅前」からは五分で到着する。

光徳寺は浄土真宗大谷派、天正十五年（一五八七）の創建である。開基は名和明信。南北朝時代に八代荘を統治した名和氏の子孫である。はじめ八代の海士江にあり、のち大村へ移り、さらに寛文元年（一六六一）に現在地へ移転している。

実は八代城下町付近の薩摩街道沿いには、同時期に西林寺（寛文二年一六六一）または寛文

末に再興）、来福寺（寛文三年一六六三）創建）、清傳寺（寛文六年一六六六）創建の説あり）が開かれている。

光徳寺はその後火災に遭い、天



写真② 菊水が彫られた虹梁と木鼻。虹梁の上に箴欄間

保四年（一八三三）に再建。それがいまの建物である。

さて光徳寺で忘れてはいけないのが「彦一とんち話」。八代地方の民話で、その話の種類は江戸時代からはじまり、明治のもの、昭和のものなど百話以上、数えられる。とくに「天狗のかくれみの」は全国に知られる代表的な話である。

もともと上方落語の祖・米沢彦八（正徳四年一七一四没）のいわゆる「彦八話」が全国に広がり定着したもののひとつとも言われているが、八代の風土に根付き、八代人によってアレンジ、発展されてきた。例えば主人公・彦一は、実際に出町に住んでいた彦市がモデルだと言われている。光徳寺の過去帳には彦市の祖母や二人の娘の記録が残

る。境内には「彦一とんち話」を記念する彦一塚や、彦市の墓跡を示す標木も立つ。また「彦一と化けだぬき」や「とつくりのなぞ」など五つの話で、光徳寺は舞台となっている。そんな彦一との出会いも期待しつつ境内へ。

街道には二つの門が開く（写真①）。入母屋造の立派な山門と冠木門である。山門は四本の本柱が立ち中央の二間に門扉がつく。また前後に控柱が二本ずつ立てられる。三間二戸四脚門である。切石を斜め四十五度で敷きつめた舗装（四半敷き）をして、禅宗様礎盤といわれる石の上に柱を立てる。正面の虹梁に彫られた菊水は、木鼻（部材の先端）まで連続する（写真②）。その虹梁の上に箴欄間をはめ、天井

には格式高い格天井を用い、本柱と控柱の間を花狭間はなせまで飾る。

瓦にも着目すると、巴瓦には「光徳寺」、滴水瓦には「長年山」と記され、獅子口には帆掛け船紋がある



写真③ 最上部に帆掛け船紋の獅子口。巴瓦に「光徳寺」、滴水瓦に「長年山」

(写真③)。「長年」は建武中興に尽力した名和長年にちなみ、紋は名和氏の家紋である。

本堂(写真④)は山門の正面、基壇上に建つ。巨大な本堂である。正面が柱間の数で七間、奥行きが六間。向拝むかひ(参拝するための正面の軒下空間)柱をのぞきすべて丸柱で、それらは大きな礎石に立つ。

正面と側面に広縁がめぐり、広縁から一段下がって落ち縁も設け、擬宝珠ぎぼし勾欄こうらんをつける。縁束(写真



写真④ 本堂

⑤は上下端が丸くなっているが、

これは「ちまき」とよばれるもので、本来禅宗寺院に用いられた柱のかたちである。束は禅宗様礎盤に立ち、束の上に大斗だいと肘木てしきをのせる。

この縁束は本山である京都の東本願寺御影堂・阿弥陀堂(明治二八年 一八九五再建)にそっくり。



写真⑤ 反り上がる形状の禅宗様礎盤。ちまきのある縁束。枅形の部材が大斗。その上が肘木



写真⑥ 亀蛇瓦。巴瓦に「光徳寺」、軒平瓦に「長年山」



写真⑦ 虹梁の上の水平な部材が台輪。写真右に写る彫物が手挟たばさみ

これらの柱もちまきがあり、禅宗様礎盤に立つ。

広縁筋の柱をつなぐ虹梁の上には、やはり本来は禅宗寺院に用いられた「台輪」とよばれる部材がある。

柱間の距離が短い場合は、台輪の中央に墓股かえるまたをのせ、長い場合は出組と墓股を交互に配する(写真⑦)。

内部は浄土真宗の典型的な間取りで、天井は小組格天井とする。組物は大斗を用いず、肘木を柱に直接挿す。外陣の奥は

おっとわっとあすび その③

絵と文／松舟博満



「石ナシ」と台風

村ば見下ろす上ん畑んぐるりに、なまたかナシの木んあつた。「石ナシ」ちゆて小みんかなナシじやったいどんが、他きやな無かつたでいっだんと食を

ごっしてたまらんじやったいどん、登りやなんしガソは、とどかじん、あんこにやあてながむっばっかつじやった。

ラジオで台風のこつちやみや来て何遍も云いきやうったてば、

子どもなナシば食いぎやなつてよろくうで、大人んしは、風で稲のうっ倒れわせんどかて心配しおらいた。

雨風ん強うなつて出も入んもならんめえひなれば家ん中きやジツとしとつて、台風の過ぎつとば待つとつて、ナシの木ん下ちやいたん見ればなま沢しやつこけとつたで、ひるうてかじつて見れば、やつとでかんつきがなつて固うして、しいかつたばうてんめずらしゆは、あつたで食いおつた。

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇神社・文化苑「童遊館」】



写真⑧ 結界の内側が柵内。その先に内陣

結界を設置した柵内とよばれる空間（写真⑧）。床も一段上がる。さらにその奥、中央に内陣、左右に余間がある。どちらも床をさらに一段上げているが、内陣は余間よりも床が高い。格式が明確に示される。本堂右の庫裏も大きな唐破風が



写真⑨ 左に本堂。右に庫裏の式台。唐破風もその墓股も大きい

覆う式台があり立派である（写真⑨）。鐘樓の垂木は傘の骨のように放射状にかけられており、これを「扇垂木」とよぶ（写真⑩）。これも本来禅宗寺院に特徴的なものであった。本堂は浄土真宗に典型的なもの



写真⑩ 鐘樓の扇垂木

で規模も大きい。その一方、細部には禅宗のデザインを多く取り入れた折衷的な特徴が見られる。【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】



上杉芳野の「あがつ段」③7

天使と下腹出る子先生



1歳から5歳までの子どもたちが通う中球磨幼稚園の園児たちと記念撮影

太り過ぎ下腹出る子で〜
〜す!〜というと、可愛い笑顔と可愛い笑い声が聞こえて来た。

私の芸のバスガールも余り長くても解らないだろうから、最初の面白いところだけを披露して園児の笑いを誘い、さあ次が園長先生の番である。

私のオリジナル曲「会えて良かった」を一緒に踊って頂くのだ。園児全員で「祐ちゃん出てらっしゃーい!」と叫んだ。「はーい!」と女装に変身した祐ちゃんの、大きな声と態度は男のままでの登場である。

さあ〜大変。1〜2歳児は不気味な怪物とでも感じたのだろうか何人かが泣き出した。その泣いた園児を保育園の女の先生が抱っこしてなだめる。2〜3歳児は笑いもしないで、瞬きもしないでジッと見ている。4〜5歳児はやっぱり年長さん。見て直ぐに園長先生と解ったらしく、指を差しながら隣の子に「園長先生〜園長先生ばい」と教えながら手を口に当て、クツクツと笑い出した。そして顔を上に向け、大きく手を叩き笑っている。子供は素直に表現するなア〜と思った。

最後は「おもちゃのチャチャチャ」の曲に合わせ鍋のフタやシャモジ、カスターネット、鈴などを持ち、全員で輪になって回った。最後には夕陽ぎんぎんざらざらを踊り、終わった。帰る時にはみなさんが保育園の門まで出て来て、「下腹出る子先生、又来てねエー」の声援に見送られ、若いパワーをたくさんもらって帰宅した。このパワーを次はお年寄りに届けんばん!〜と思った。私を癒してくれた無邪気な天使に感謝である。



か?」「はい」と言いながら可

可愛い衣装や帽子、ハイソックスなどを手渡すと、笑顔で受け取って頂き、準備が始められた。校長先生あがりと聞いていたが、幼稚園の先生向きた。先ず、私のバスガールからスタートだ。幼稚園児が喜んでくれそうな可愛い衣装に赤のベレー帽、白い手袋、ピンクのハイソックスの出で立ち。そしてあさぎり町の旗を持ち耳にはモールで作ったイヤリング(五十万円相当!)を飾り、舞台上に登場した。「ハイイ、おはようございます。私はあさぎり町のバスガール、上杉食べ過ぎ

山に行こうよ!

その⑩

「人吉球磨ハイキングクラブ」通信より

市房山第一縦走路

(水上村・宮崎県)

標高…1721m

2019年4月28日(日)

参加者…10名

天候…晴れ

2台に分乗して7時に人吉市



ヒカゲツツジ

を出発。市房山駐車場に8時到着。駐車場は連休とあって県外ナンバーの車で満杯だった。

去年第一縦走路の帰りに迷い込んだ苦い思いがあり、第一縦走路の登山口までの道路を3回にわたり下見し、前回迷った場所も分かり、今回は安心して第一縦走路登山口に9時に到着。

少し休憩を取り、登山口9時10分出発。杉林の登山道は杉の落ち葉で感触もよく天候も良好。

登るにつれて急登が続く。ようやくツクシアケボノツツジの花が目につき、少しずつ歓声が上がり、また右側の市房山の側面もアケボノの花が枝の合間から見られ、疲れを癒やしてくれる。

何回か休憩を取り、アケボノの生息地点標高1360mに11

時30分、到着。アケボノの花が満開、北側の側面にはヒカゲツツジの花も一面に咲いていて、とても気持ちのよい花見ができたと思う。その下で昼食を取り、12時30分より下山。

帰りは何事もなく駐車場に2時30分到着。その後人吉に向かって帰路についた。皆様大変お疲れ様でした。
【吉村秋雄】



花に囲まれて記念撮影

人吉医療センター 開院百四十周年

初代院長「西道庵先生」の実像を追って①

那須智治

はじめに

人吉球磨、鹿児島県の伊佐市、宮崎県えびの市の地域医療の拠点である人吉総合病院を引き継いだ人吉医療センターは昨年、開院百四十周年を迎えた。独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）人吉医療センターが

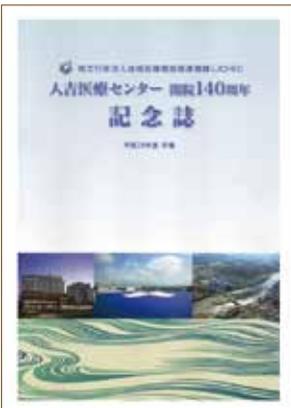
正式の名称であるが、ここでは人吉医療センターと呼ぶことにした。

平成三十年十月、開院百四十周年記念式典と祝賀会が盛大に「あゆの里」で開催され、人吉医療センターの歴史を振り返る記念誌も発行された。

人吉医療センターは、明治十一年十月八日に公立人吉

病院として発足、幾多の変遷を繰り返し平成二十六年四月一日、独立行政法人地域医療機能推進機構に移行し「人吉医療センター」に名称を変更した。

私は、平成十九年に、この人吉医療センターの前身の私立人吉病院時



代の調査をし「人吉・球磨の歴史」に原稿を送ったことがある。その内容に問題があり、訂正する必要から筆を執った。これから述べることは軽薄な私の失敗談である。

一 「人吉・球磨の歴史」に執筆依頼を受ける

平成十九年九月二十八日、長野県にある郷土出版社から『人吉・球磨の歴史』が出版された。監修は郷土史家の渋谷敦先生、顧問は前田一洋先生であった。

平成十九年の春、前田一洋先生から今度「人吉球磨の歴史」を新たに出版することになった。そこで人吉総合病院の前身の「私立人吉病院の設立」について執筆して



『人吉・球磨の歴史』に掲載した西道庵の写真



佐竹文敬 姿写真
ガラス乾版（筆者保管）

ほしいという依頼が来た。私は郷土の歴史には関心があつたが、今までその道の調査をしたこともなかつたのでお断りをした。「歴史書に執筆者の名前が出ることは名誉なことだから」頑張って調査しなさいということであった。そのお勧めに私は少し色気を感じたのだろう、止む無く引き受けることになった。調査・執筆時間も余裕がなく三週間ばかりで提出を要求された。これはやはり無理なこととお断りしたが、なだめられて、おだてられて引き受けることに相成つた次第。どうして私に原稿依頼があつたのだろうか。当時私は、江戸で第三十五代相良頼基公に藩士として雇われた蘭方御典医「佐竹文敬」の調査執筆を「週刊ひとよし」に連載していたので、お声がかつたのではなからうかと後日思った。

それからは先人の研究論文や、球磨郡誌、永田・福永市長時代に発行された種元勝弘先生編集の『人吉市史』、『人吉市医師会誌』、『人吉総合病院の資料』を参考に、どうにか纏めて期限ギリギリに原稿を送ることができた。与えられたページは文字数が八百七十字と制限された一ページと写真、図譜の为一ページだけであつた。「西洋美術を広めた人々 私立人吉病院の設立」という表題の原稿と「初代院長・西道庵先生」の写真（人吉市史から引用）を届けることができた。が、資料を集めて執筆した文章であり、資料の整理にも字数制限の為に書き洩らしや原稿に間違いがあつたのではないかと不安であつた。

その年の秋、『人吉球磨の歴史』の新刊書が届いた。私が担当した部分を再読してみるとやはり誤りが出て来た。出版社に訂正文を申し込んだが頑として受け付けてもらえなかつた。（この出版社はその後倒産したそうである）

それ以来、どう対応して良いかわからず今日に至つてある。が、私立人吉病院初代院長「西道庵」先生に興味を持ち、遅まきながら西道庵先生の事をもっと知りたいと思ひ、過去の資料を得るには自らの足で探し求め

ることが第一として動き出した。

さらに江戸で蘭方医の医師としての力量を認められ御典医として藩士に迎えられ、文久二（一八六二）年に人吉藩に下向した佐竹文敬と、私の曾爺の奥医師那須玄要（那須家は第二十二代藩主相良頼喬公に医師として雇われている）が若き西道庵に大きな影響を与えたことは間違いなく、その関わりも調べてみたく調査を行った。佐竹家と那須家は明治時代に姻戚関係になり、佐竹文敬の妻子「節三（明治元年生まれ）」に那須玄要の孫娘「きよ」を嫁がせている。

二 「西洋美術を広めた人々」私立人吉病院の設立

ここで、人吉医療センターの前身である「私立人吉病院」について少し紹介してみたい。以下の文章は郷土出版社「人吉・球磨の歴史」に私が執筆したものである。

文政六（一八一三）年、オランダ商館医師シーボルトが西洋医学を我が国に伝えてから各藩に西洋医療が広まつた。当時人吉藩では草根木皮を使った民間療法と漢方療法・鍼灸・按摩、祈祷が主であつた。元治元

(二八六四)年九月、第三十五代藩主相良頼基公は蘭方医の御典医の佐竹文敬を江戸から随行させた。

それまで人吉では江戸末期の文久三(一八六三)年、幕府に反して人吉に亡命した肥前島原の蘭方医三宅莞齋が岡幸兵衛方に開業。藩は西洋医の必要性を感じ、亡命者に開業を認めているが、二年後の慶応元年(二八六五)、「丑年騒動」に関係したとして三宅莞齋を放逐した。



人吉公立病院設立の記念碑 寄付者の銘有り
(人吉医療センターの敷地内にある)

藩では西洋医を養成する必要に迫られ、御典医佐竹文敬、奥医師那須玄要等の進言があったのか、慶応元年、若き秀才の西道庵ほか六名に江戸遊学を命じた。(別の資料には全員で十二名とある)

その年、幕末浪士で人吉藩お預けの谷地要及が岡氏の斡旋で三宅の残した薬剤器具を使つて開業したが、明治三(一八七〇)年に各藩預け浪士の帰郷が許され帰国。又明治初期に会津戦争で捕虜にした洋医弥路揚久に普及させようとしたが、しばらくして水戸に帰郷したという。西洋医学が人吉町民に浸透して来た反面医者が不在になり、道庵の実弟の佐無田 栄氏からの要請を受けて帰国した西道庵は、明治六年五月、自家開業許可をとり、紺屋町に医師養成の医学私塾を兼ねて開業すると、評判は鹿児島まで広がり患者が待合室にあふれたという。

明治七年五月一日、西道庵を中心に宮原公継・相良淡海・山田秀信らの共同出資により「私立協議病院」(のちに私立人吉病院と改称)が新町に設立された。

明治十年一月末、「西南の役」のため病院は閉鎖、医師は賊軍の支配下となる。六月一日、官軍が人吉を占領

すると官軍病院(包帯所)として医師と共に徴用された。

人吉町も激戦場となり、街並み焼かれ、コレラが発生。西道庵は嚴重な防疫態勢をしき、間村阿川宅を隔離病舎(熊本縣仮病院出張人吉支病院)にして、縣派遣の柿田源八医師と治療に当たる。これを機に病院の存続と再建を望む声が起こり、郡内各戸三錢の寄付と篤志家の寄付により明治十一(一八七八)年十月八日、現老神町に公立人吉病院(人吉総合病院の前身)が落成するに至った。西道庵はその初代院長になった。

左は、私が『人吉球磨の歴史』に引用した『人吉市史』



『人吉市史』の西道庵の写真(左下)

の公立人吉病院院長・西道庵の写真。

(参考文献 球磨郡誌、人吉市史、人吉市医師会誌)
(郷土出版社 「球磨人吉の歴史」から 執筆 那須智治)

三 西道庵

西道庵は嘉永元(一八四八)年、東間上町佐無田郡蔵の長男として誕生。「人吉市医師会資料」には「西道庵は弘化四(一八四七)年、間村佐無田郡蔵の長男に生まれ」と記載があり、医師西家の養子となる。

慶応元(一八六五)年、蘭方医伊藤玄朴に師事、翌慶応二年藩費留学生として慶應義塾入学。明治元(一八六八)年、東京府大学「東校」(元人吉市医師会理事故権頭 亮氏の資料には「南校」とある。西道庵の履歴書によれば「東校」とある)に入校。明治二年、長崎洋法医吉尾圭齋に師事。明治四年、下総国佐倉佐藤俊海に師事。明治四年、常陸の土浦病院長を経て、明治六(一八七三)年に帰郷する。この時、士族から平民になっていた。医師の習得に余念のなかった西道庵は明治元年、会津戦争への出兵の際「軍医として従軍せよ」と

の藩の要請に応じなかった。道庵は、無断出奔のかどにより、士族から平民に落とされた。武士が士族から平民に格下げになるといことはこれほどの屈辱は無かつたろう。道庵は妻ヨシとの長男「東」^{（抄字）}を士族の高松家に養子に出し、子供に士族の身分を与えている。

四 調査行脚を始める

西道庵の生家を訪ねる

私はこれ以上の過ちは無いものかと西道庵先生のこと



西 道庵の肖像と伝わっている写真
(ガラス乾版 佐無田家蔵)

とを詳しく調べなければならぬと思ひ、過去に発表された資料を調べてみることにした。まず西道庵の生家である佐無田家（東間上町）を訪ねた。当主の佐無田護氏から貴重な資料を提供していただき、そこで意外な事実をきかされた。

①ミステリアスな西道庵の肖像写真

では改めて上の写真を見ていただきたい。

この人物の写真を改め見てみると、人吉市史や近年発行の歴史書に西道庵として使われている写真である。この写真の人物は人吉医療センターの前身で「私立人吉病院の初代院長の西道庵」と人吉市史にも説明がある。

この写真を見た郷土史家の先生たちも私を含めて多くの人が全くそのように信じていた。

ところが西道庵先生の生家の佐無田家にお邪魔した時、佐無田護氏が、「これは道庵の写真では無かどですよ」との話を聞き、びつくりしやくくり目を丸くして改めて資料を見せていただいた。

(下)に続く

【なす・ちはる／人吉市】

せきれい 鶴鴿短歌会

六月詠草

水青く川面に映る石垣に榮華の跡の面影見え
苔むして榮華を語る石垣を吹きぬけてゆくは風の音だけ

守永 和久

小石の塔岩戸川辺に寂しげに我もさん重に積みて祈らむ
天照隠れし岩戸は雑草に覆はれて今は入口も見へず

河内 徹夫

車窓より次々見える新緑にひと際赤き新芽を見たり
地場産の蜂蜜白く固まりて猛暑のなかも溶けるを知らず

中村美喜子

八十路超え読書重ねていく中に難解なる文字読めぬが虚し
たそがれに短歌推敲しておれば居間より妻の呼ぶ声聞こゆ

西 武喜

同期生絵画展に集りぬ感想聞かれ「美はそれでよし」
ハネムーン宿の跡地にホテル建ち思ひ寂しく一人旅発つ

釜田 操

鶯の心地良き声聞こえ来る風も爽やかゴルフ楽しむ
山ぼうし青葉の森に白い花ひと際目立ち誇らしげ見ゆ

三原 光代

亡き夫の趣味の荷物整理しつ別の姿にしばし手を止む
知人より骨董市へ誘われて別の世界に一步踏み入り

中原 康子

五月晴れ緑の風に田の面揺れ棚田の夜明け装い新たに
五月雨に瀬音も高き球磨川を川下り舟しづきを上げて

橋詰 了一

時しばし止まれる如き廃校のふらここひとつ微かに揺れて
重なりて萌ゆる若葉に分け入ればしたたり落ちる緑が光る

堀田 英雄

坂本の製紙工場小史 (5)

上村雄一

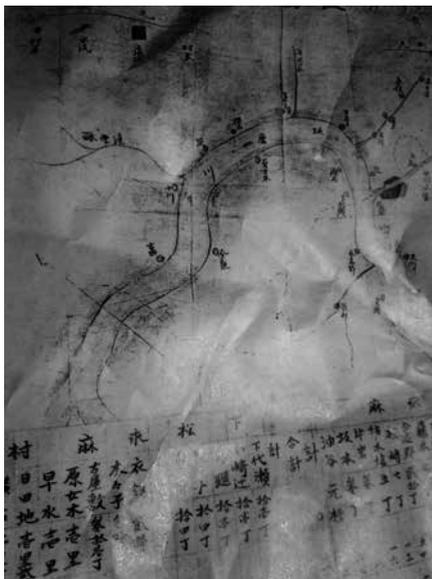
工場建設時の坂本の人口分布

明治29（1896）年7月1日、東肥製紙株式会社は設立総会を開催し、坂本に製紙工場を設立することを正式に決定した。当時は、会社設立は免許制で、同年5月29日付で農業商務大臣宛に申請し、同6月19日に申請を認める決定を受けての総会であった。

総会後の同年11月1日に、工場予定地の坂本に工場建設事務所を開設。12月11日から、整地作業・道路変更作業を開始した。

同時に、同社はその頃、工場近辺の人口等を調査している。建設作業員候補者を確認するための調査か、工場稼働後の労働者確保の観点からの調査か、それとも両者であるかを確認する資料はない。三者のいずれにせよ、

工場建設に先立って実施すべき準備作業である。なにかの事業を始めるとき、スピード（いきおい）も大切だが、事前確認はかせない。坂本工場建設においては、いくぶん、計画性に欠ける側面があったようにみえる。百済来村の状況を確認できず、上・下松求麻村についてもすべての集落を対象にしていないが（そもそも、それを目的にして作成されていない）、「工場付近調査書」は、120年前を確認できる第一級の資料である。目についたものを並べる。



「工場付近調査書」工場から各集落までの距離、各集落の人口、馬、牛の数が記載されている。写真では確認しにくいので、現物に近い表を作成した（下）。

上松求麻村

支村名	油谷	坂本	片岩	坊ノ木場	松崎	合志野	藤本	大門
工場までの距離	元標	参丁	参丁	五丁	七丁	貳拾丁	貳拾丁	貳拾五丁
戸数	12	27	18	16	13	54	70	41
男	32	93	55	61	40	158	224	111
女	35	87	52	57	42	163	170	146
計	67	180	107	118	82	321	384	257
牛	3	7	10	12	3	15	10	14
馬	0	0	0	0	1	5	2	0

下松求麻村

支村名	下代瀬	小崎辻	馬廻	生名子	瀬高	小崎	衣領	木々子
工場までの距離	拾壹丁	拾壹丁	拾壹丁	拾四丁	拾四丁	拾四丁	貳拾丁	貳拾壹丁
戸数	18	16	44	21	21	33	27	56
男	51	49	122	54	66	100	90	170
女	61	45	128	61	64	95	82	158
計	112	94	250	115	130	195	172	328
牛	9	7	29	9	11	20	13	31
馬	0	0	0	0	0	0	0	0

洪利	荒瀬	佐瀬野	下葉木	上葉木	合計
参拾参丁	参拾参丁	参拾五丁	壹里貳丁	壹里参丁	
34	58	32	61	35	471
112	171	115	191	115	1478
94	151	96	154	90	1327
206	322	211	345	205	2805
16	11	13	15	13	142
0	3	0	1	1	13

古屋敷	原女木	早水	日田地	横石	合計
貳拾壹丁	壹里	壹里	壹里貳丁	壹里参丁	
22	26	30	20	40	374
74	89	82	53	115	1115
72	79	102	71	124	1142
146	168	184	124	239	2257
13	11	18	9	16	196
0	0	0	0	0	0

①「大林集落」の記載がない(江戸時代の文献にも「大林」の地名は見当たらない)。鮎婦川右岸の同地は「新工場^{しんこう}」と呼ばれていた場所。倶楽部・テニスコート・住宅が並ぶ地域だが、工場建設によって生まれた地区であらう。

②工場建設後、人口集中地になる油谷・坂本・松崎・片岩などの各集落の人口は少なく、藤本・合志野・荒瀬・葉木など球磨川沿いの集落の人口が多く、「七夕綱」で有名な木々子の人口が目立つ。

③「牛馬」は山林用である(農耕用ではない)。「牛」と「馬」の「道具的価値」の相違を即断できないが、下松求麻村では馬が皆無であることに気づく。

等、数えきれないほどの情報が同表に含まれている。10年後の明治41年に八代—人吉間の鉄道が開通するが、川運に対するその影響もこの表をもとにある程度は推測できるだろうし、須恵村のような他の地域との比較資料にもなるだろう。ついにながら、藤本と大門は同一集落とみてよく、上葉木・下葉木も同様である。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】

資料 昭和2年の上下松求麻村

平成17年8月1日、旧坂本村は、旧八代市・千丁町・鏡町・東陽村・鏡村と合併し、「八代市坂本町」になった。旧坂本村は、昭和36年4月1日、八代郡上松求麻村、同下松求麻村、芦北郡百済来村の3村

の合併により成立した。それよりさき、上松求麻村と下松求麻村は「松求麻村」であった。「松求麻村」の地名は、クマ(球磨)に由来していると推測される。

ここでは、『八代郡誌』(昭和2

年)により、昭和初期の「松求麻村」の概要をメモしておく。

《上松求麻村》

本村は、八代郡の南端、球磨、葦北両郡に境し、球磨川に沿ひたる峡間の一部落にして、八代町を距る5里なり。

並びに少数有志の経営に関するもの多数にて純農業を以て立つもの甚だ少数にして農業者の多数は畑、山林等雑業にて、葉木以東直接間接、九州製紙会社によって生活をなしつつある状態なり。

三 重要産物

①木材 12182石

②甘藷 577600貫

57760円

一 人口及び戸数

戸数 1005

人口 7387

一 人口及び戸数

戸数 822

人口 2778人

男 3000人

女 5778人

計

二 生産及び産業

本村は田畑少なく、山林多き山間部落にして水田は殆ど洪利といふ一部落に限られ、山林は掘会社

《下松求麻村》
本村は郡の南端に位置し、球磨川の両岸に跨る。東は球磨郡山江村及び五木村、並びに本軍川俣村と境し、北は宮地村に、西は高田

宝永元年十月「利根川・荒川浚御普請手伝いに付…」

人吉藩の借金と返済計画及び江戸経費節減計画①

尾方保之

四 人吉藩の財政収入（納銀）と支出削減計画

人吉藩の財政収入はどれほどあり、借金返済のため、支出削減をどのようにすすめるか、資金を捻出したのだろうか。前に述べたように、藩の年貢は、宝永年間には約二万四千石の納米があり、その他に畠銀や小物成（茶・桑綿・漆・楮）、それに各種運上銀があった。

しかし、これらの税収入から家中武士の奉禄（物成）や扶助米など約半分が差し引かれ、残り半分ほどが藩の諸経費であった。史料は、藩の財政収入について「御在所年々納銀覚」として、次のように記している。

御在所年々納銀覚

高銀 六百七拾参貫四百五拾目

御金屋納り

畠地銀納り

茶代納り

竹木納り

勘定所代物万代納り

山役納り

諸役所万払物納り

山運上納り

人吉藩の諸経費を賄う納銀の総額は、六百七十三貫四百五十目という。

金一両、銀六十匁として、金一万二、二三四匁ほどである。

これをどのように支出するのか、残っている借金返済金を捻出するため、江戸、大阪、在所人吉における節減計画は次のようになされたようである。

右の内

一、四百貫目 戊年（宝永三）御在所御遣用

一、百三拾六貫目 御在所役所万遣用

一、六十貫目 大阪遣用

一、拾式貫目 長崎買物代

四口合 六百八貫目

引残りて

一、六拾五貫四百五拾目

此の銀戊（宝永三）春大阪御借銀返済に成る筈。

藩の収入六百七十三貫四百五十匁の内、宝永二（1705）年の江戸経費（藩主出府年）を、銀四百貫（藩主留守年三百貫）とし、在所人吉の役所経費を百三十六貫とする、そして、大阪経費を六十貫とし、長崎買物代を十三貫

と見積ると、四口の合計が六百八貫目となるので六十五貫四百五十目が残ることになる。

この銀を宝永三年（戌年）の借金の返済金とするという計画である。

宝永三年春には借金が、前述のように、百八十五貫八百九十目残っていた。

そのため大阪御借銀元利合計は、

戌（宝永三）春

一、貳百六貫百九拾六匁八分

元百八拾五貫八百九拾目

利息が二十貫三百六匁八分となっており、この元利合計

が二百六貫百九十六匁八分である。この残高に対し、宝永

三年は、六十五貫五十目返済する。

すると、残りは、

戌春御借元

一、百四拾貫七百四拾六匁八分

利拾六貫八百九拾目

そこで、翌年亥（宝永四）年の借金の元利は百五十七貫六百三十六匁八分となる。

そのため、宝永四年（亥）の必要経費を次のように計画した。

亥春（宝永四）

一、元利合百五拾七貫六百三拾六匁八分

一、参百貫目 亥年御留守江戸御遣用

一、貳百八貫目 御在所役所

大阪 長崎遣用

参口合 六百六拾五貫六百三拾六匁八分

右は亥年御在所納めにて済

宝永四年（一七〇七）の藩の経費は、残る借金の元利百五十七貫余、それに江戸経費三百貫（留守年のため在府年より百貫減額）、大阪、長崎経費を二百八貫としている。

そのため、その合計金額が六百六十五貫六百三十六匁八分となる。

宝永四年の年間納入銀、六百七十三貫四百五十目から差し引くと七貫八百十三匁二分が余ることになる。これによって、大阪銀主よりの借金が完了し、在所御蔵銀からの借金のみが残る。七貫八百十三匁余は、そのために在所御蔵御用銀の返済に当てられた。

資料1 人吉藩の支出現積書

支出の内訳	藩主在江戸年 (宝永3・5・7・正徳2)	藩主帰国年 (宝永4・6・正徳1)
御在府遣用	銀 400貫 (59%)	銀 300貫 (44.5%)
御在所役所万遣用	銀 136貫 (20%)	銀 136貫 (20%)
大阪遣用・長崎買物代	銀 72貫 (11%)	銀 72貫 (11%)
引残（借銀返済）	銀 65貫 (10%)	銀 165貫 (24.5%)
合計	銀 673貫	銀 673貫

資料「宝永元甲申歳十月 利根川・荒川浚御普請御手伝付…
(相良家文書No.167 広島大学図書館蔵)

五 御在所御蔵御用銀の返済計画

大阪銀主からの借金返済は、宝永四年に終了する計画であるが、在所御蔵御用銀への返済が、五百三十貫ほど残ることになる。そこで藩は、在所御蔵御用銀の返済計画を次のように立てた。

是れ自り御在所御蔵に返銀の積り

亥年（宝永四年）納銀御遣方引残り

一、銀 七貫八百拾三匁三分

此の銀御在所御用銀御借りに御返済の筈。

子年（宝永五年）御在江戸御遣用並に御在所大阪御遣用引残り。

一、同 六拾五貫四百五拾目

此の銀右同断

丑歳（宝永六年）御留守江戸御遣用並に御在所大阪御遣用引残り。

一、同 百六拾五貫四百五十目

此の銀右同断

寅年（宝永七年）御在江戸大阪御在所御遣用引残り。

一、同 六拾五貫四百五拾目

此の銀右同断

卯年（正徳元年）御留守御在所大阪御遣方引残り。

一、同 百六拾五貫四百五拾目

此の銀右同断

辰年（正徳二年）御在江戸並に御在所大阪御遣方引残り。

一、同 六拾五貫四百五拾目

此の銀右同断

六口合 五百参拾五貫六拾参匁三分

辰春此の銀高に成る積り。

このように、御在所御蔵御用銀の返済計画として、藩主が江戸参勤した年の在江戸経費が四百貫としたために、引き残り金が六十五貫四百五十目となる。このような年が宝永五年と七年、それに正徳二年である。藩主が交代で帰国して在所にいるため、江戸留守の年の江戸経費は、三百貫としたため、引き残り金が百貫多い百六十五貫四百五十目となる。このような年が宝永六年と正徳元年である。このように計画すると、正徳二年（一七二二）には、五百三十五貫余の銀高となり、借金の返済が可能としたようである。ただし、利息は計算されていないようである。

六 江戸の諸経費と人件費の節減計画

藩は、利根川・荒川の普請手伝いとその他の借金六百六十四貫余（金二一、〇〇〇両余）の返済のため、江戸の経費と人件費の節減計画を立てた。

江戸の年間経費について藩主が参勤して江戸に滞在している年（御在府年）は、銀四百貫目、帰国している年（留守年）の江戸経費は三百貫目と定めて、経費の使用項目及び見積書を作成した。その見積書が「御在府御遣方覚」と「御留守御遣方覚」である。

人吉藩では、宝永元（一七〇四）年頃、上屋敷（愛宕下敷小路）と下屋敷（赤坂邸）には、藩主頼福公をはじめ奥様、若殿（長興）、月仙院（二代頼喬夫人）のもとに家臣や女中・使用人など約三百人が住んでいた。（留守年約一八〇人）

江戸経費節減計画

藩主藩邸支出項目	御在府年遣方（宝永3）	御留守年遣方（宝永4）
御進物	銀 17 貫目	銀 12 貫 135 匁
御祈祷	〃 1 貫 500 目	〃 1 貫 895 匁
御法事	〃 2 貫目	〃 1 貫 756 匁
御道具持	〃 1 貫目	〃 195 匁
御召料	〃 6 貫目	〃 4 貫 260 匁
御小遣	〃 2 貫 756 匁余	〃 1 貫 744 匁
御祝	〃 1 貫目	〃 578 匁
万小遣	〃 8 貫目	〃 7 貫 335 匁
上々様出御	〃 1 貫目	〃 200 匁
御振舞	〃 3 貫目	〃 2 貫目
両殿様御常住	〃 10 貫目	
御馬調	〃 1 貫 200 目	
御馬 10 疋飼料	〃 13 貫 28 匁余	5 疋飼料 6 貫 514 匁余
御参府御道中	〃 15 貫目	留守詰参府 5 貫目
御留守詰帰路料	〃 5 貫目	帰城御道中 15 貫目
御買物	〃 39 貫 679 匁余	銀 37 貫 821 匁余
破損修理方	〃 16 貫目	〃 17 貫 948 匁余
藩主藩邸諸経費計	銀 143 貫 164 匁余	銀 118 貫 426 匁余
奥様遣方並附衆手当	〃 39 貫 428 匁余	〃 39 貫 428 匁余
月仙院遣方並女中手当	〃 30 貫 373 匁余	〃 30 貫 373 匁余
江戸詰家臣手当（当介）	〃 187 貫 33 匁余	〃 109 貫 506 匁余
合計	銀 400 貫	銀 300 貫

資料「江戸諸事御勤略積」「御在府御留守惣人数積」（相良家文書No.167）
銀400貫（金6,660両余） 銀300貫（金5,000両）

「御在府惣人数御擬作」によると、家老米良半右衛門をはじめ、用人・物頭・勝手方等の武士が約八十人、足軽・中間・人足が夫々四十人ずつで百二十人、それに駕籠舁・馬取・草履取・料理人・大工など約八十人、その他医師（2）・茶坊主（6）・女中・番人など二十人ほどである。元禄時代までは三百三十人を超す人数だったが、人数を減らすとともに、手当（当介）も減額することになったのである。

殿様たちの交際費や食費、家臣たちの手当などの人件費を、在府年は四百貫（金六、六〇〇両）、留守年は三百貫（金五、〇〇〇両）内で、賄うことになった。これをまとめたのが次の資料である。（江戸経費節減計画）

「御在府万御遣方覚」によれば、殿様や若殿をはじめ、上屋敷藩邸の諸行事、諸交際費、衣食住の買物など、それに参勤の経費なども含めて、百四十三貫余となっている。全体の三六%ほどである。また、藩主頼福公の奥様並に附衆の経費が、三十九貫余（一〇%）である。そして、月仙院（頼喬夫人）遣方並に女中手当が三十貫余（七%）である。次は、江戸で生活している家臣三百人に支払われる手当金（宛行・擬作）である。その総額が百八十七貫余となっている。全体の四七%である。

藩主が帰国して留守の場合でも、江戸屋敷には百八十人ほどの江戸詰家臣が生活していた。上屋敷藩邸の諸経費が、銀百十八貫（四〇%）となっていて、藩主の在府年より、二十五貫ほど少なくなっている。奥様と附衆、義母月仙院と女中の経費は、在府年の経費と同額で、三十九貫余（一三%）と三十貫余（一〇%）である。

御留守年の江戸詰家臣の人数は、百八十人ほどで、在府年より百二十人ほど少ないため、手当は百九貫余（三七%）となり、七十八貫ほど少なくなっている。よって、留守年の諸経費と家臣の手当の合計は三百貫となっている。

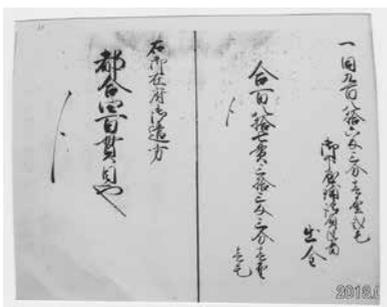
これは計画書である。儉約を徹底し、計画の通りに実行するには、いろんな課題があったと思われる。

この文書は、具体的計画について述べたあと、この計画書が作成された理由を示し、今後の守るべき事項について、次のように述べている。

要点をまとめると

- *借金返済の間、諸事簡略するため、江戸詰人数を減少なされた。
- *お金の遣い方もずいぶん吟味され、定められたので、これ以上経費を増やさないことが肝要である。
- *これからは、役人の努力でさらに減少するように、心がけることが大切である。
- *家老・用人はもちろん、小役人などまで、右の趣旨を忘れないように心得なければならぬ。
- *若しこの計画よりも経費が増加すれば、辰年正徳二年までの返済や江戸の遣い方の取り組みが違ってくることになる。
- *よって一ヶ月ごとに遣い方を帳面に記録して、係り係りで吟味し、家老・用人の指導のもと、熟談を行うこととなつている。

おわりに



「御在府御遣方都合四百貫目也」



「御留守遣方 都合銀参百貫也」

利根川・荒川の普請手伝いと借金の返済計画の記録を通して、人吉藩の財政のしくみや規模、借金と返済の方法などについて、具体的に知ることができた。

また、江戸経費や江戸詰家臣の手当節減計画の記録を通して、江戸屋敷の諸経費の消費項目や金額、家臣の人数やその手当額など具体的に知ることができても参考になった。

それとともに、幕府命令の普請手伝いが、藩にとつて如何に大きな財政負担であり、領民にも大きな犠牲

を強いるかを、改めて知らされた。

多くの借金の返済のため、きちんと計画を立て、それに従って返済が行われることになっているが、正徳二(一七二二)年に計画通り返済ができたのだろうか。

なぜなら、宝永四(一七〇七)年は、夏の大雨洪水、その後のかんばつ・虫入り、そして十月には「宝永の大地震」が発生して、人吉城が大被害を受けた。

またその五年後の正徳二(一七二二)年にも大雨による大洪水が発生し、人吉街が浸水して大きな被害を残した。領民への増税が実施されていない中で、借金返済がうまく進んだのだろうか。

さらに江戸経費を藩主の在府年は、四百貫、留守年は三百貫として藩を挙げて経費節減に取り組んだのだが、これもうまく実行できたのか、疑問が残る。

ところで、人吉藩は、八十九年後の寛政五(一七九三)年、幕府より東海道・甲州川普請手伝いを命じられ、大阪商人より借金して、御用金六、八二六兩を支払っている。この年は、年貢米一石に付五升の増米が実施されている。

人吉藩の政治や財政について、まだ理解出来ないことや疑問点がたくさんある。これからも文書や資料の収集に取り組み、解明に努めていきたいものである。

【おがた・やすゆき/球磨郡錦町】

参考文献・資料

- *宝永元甲申歳十月「利根川 荒川浚御普請御手伝付…」(相良家文書No.167) 広島大学図書館蔵、県立図書館にてコピー)
- *『嗣誠独集覽』相良村誌資料編二(相良村誌編纂委員会)
- *『南藤蔓綿録』梅山無一軒著(青潮社)
- *『相良家史料卷之廿五』(熊本県立図書館蔵)
- *『人吉藩の政治と生活』(熊本県史料集成第一四番) 発行所国書刊行会
- *『概説・相良藩』(尾方保著)
- *『人吉市史第一巻』発行所 人吉市教育委員会
- *『郷土三十二号 三十三号 三十六号』(求麻郷土研究会)

その他

うんぐ...

げっかん・ぎびょう



—参院選 暮らし・いのち・希望を求める絶好のチャンス—

国民が主人公。まともな政治をしてほしいと願っている有権者の一票を活かせる大事な選挙です。みなさん、ぜひ投票所へ!

外来語から学ぶ英単語 (40) …… 藤原 宏

チタン (タイタン)・チタニウム・タイタニック・チタノサウルス Titan titanium Titanic Titanosaurus

Titan はギリシャ語で、ギリシャ語読みではティーターン、英語読みではタイタンとなります。**Titan** はギリシャ神話に出てくるオリンポスの神々以前の巨神族で、大地母神ガイアと天空神ウラノスの6男6女の巨人たちのことです。古いこれらの巨神族は主神Zeus (ゼウス) を中心とする新しいオリュンポス神たちに敗れ、大地の底深く閉じ込められました。

天然の化合物として地殻中に広く存在し、耐食性・可塑性・加工性に優れた金属元素「**titanium** (チタニウム、チタン)」は二酸化チタン (TiO₂) の形で1791年に発見されました。これに神話の中の地球の最初の子供の意で、巨神族 **Titan** (ティーターン) に因んで命名されました。

形容詞形「**titanic** (タイタニック)、巨大な」を大文字 **Titanic** にすると、1912年4月14日夜、北大西洋で氷山に衝突して沈没したイギリスの豪華客船を意味します。乗船者2000余人のうち1500余人が死亡しました。

1892年に発掘された「**titanosaur** (タイタノソー、チタノサウルス)」は「**Titan** (巨大) + **saur** (とかげ)」が原義です。

(407)

奥球磨、湯前町の偉人 那須良輔と北御門二郎

⑦

村木正則

四、竹馬の友「ロッケちゃん」と「ジロちゃん」

北御門二郎さん(本文中は二郎さんと略す)と那須良輔さん(本文中は良さんと略す)は同じ年(一九二三年、大正二年)生まれであるが、学年は二郎さんが一学年上(早生まれ)である。良さんも二郎さんもお互いを竹馬の友と記している。湯前町でもほぼ同地区(二郎さんは上染田、良さんは下染田)であったので同小学校に通い、子どもたちの遊び場のひとつである近くのお寺(道明寺)等であいっしょに遊んだ仲である。地元では当時「しゃん(「ちゃん」の意)という呼び方があったのでふたりはお互いにロッケちゃん、ジロちゃんと呼んでおり、成人後も同じように呼び合っていた。私もこども時代に友人に対してその呼び方をしていた記憶がある。

ふたりの性格は対象的であった。良さんは行動派で活発な少年、二郎さんは読書好きの静かな少年であった。但し、二郎さんは自分のことを「直情径行型」と評しているように、確かにこうと決めたら即実行するところがあった。例えばあの人に会いたいと思ったときすぐ実行し、湯山からその人の住む京都や東京に出かけた。良さんは二郎さんのことを「腕白小僧の多い中ではおとなしくあまり自立たぬ子どもだった」と記している。ふたりは自然豊かな球磨盆地で、心の充電をしたかのように子ども期を過ごしたのであるが、青年期になるとそれぞれの人生の目標に向かって志高く球磨盆地を巣立って行った。戦争と言う時代背景の中で、個人の生き方が圧殺される不幸な時代にふたりは自分の生き方を貫いた。戦争時代は良さんが戦地(中国)にいたためふたりの交友はなかったが、ふたりはそれぞれの目標を見失うことはなかった。

戦後日本国憲法が制定され民主化が進む中で、ふたりはそれぞれの目標に向かって邁進し偉業を成し遂げた。戦後ふたりが活躍する中で、ふたりは同郷人として励まし合い協力し合ったことも忘れてはならない。一例を挙げる。二郎さんが前述の誤訳問題(論争)を熊本の同人誌「詩と真実」

漢和字典は面白い

23

鶴上寛治

白

音読みはキョウ
で、訓読みはへう
す。『碓』もへう
す。で『佳』は敦
に通じへ厚みがあ

る」という意味があり、そこから『厚
みのある石』つまり「石うす」とな
る。碓氷峠・碓井氏と、町名・人
名に時々顔を見せる。白杵(ウスキ)

餅つきが盛んな町? これは冗
談だが、これを町おこしの材料にで
きないものか。一年中餅つき体験が
できるセンターとか、白と杵を型
どった土産品をつくるとか。白は「猿
蟹合戦」にも登場するキャラクター
で、しかも最後のシメをなす役割な
ので、そんなゲームとか町内の観
光ポイント・ラリーの名称にしたら
(握り飯↓柿の種↓柿↓蟹↓猿↓
蜂↓白)。

に投稿し世に訴えたとき、良さんは同誌の表紙のカットを
提供するとともに次のような一文を寄せ「二郎さんを励まし
ている。「今までどうとう訳されているロシア文学と比べて
感じたことは、読みだしたら何の抵抗もなく名作の中に入っ
ていけるような気がした」
二郎さんは、良さんについて、「思えばロッケしゃんも反
骨精神あふれる人でした。出征した戦地で、政府高官の子
弟は徴兵逃れができたことを知って『バカタレ!』と叫んだ、
と言う。彼は、昭和三四年に出した著作「吉田から岸へ」(毎
日新聞)の出版祝賀会で二郎さんは祝辞を述べている。そ
の中で「憲法九条が空文化されていく過程を痛烈に批判し
ています。政治への怒りをバネにした彼の創作姿勢と私の『反
権力』がふたりをさらに身近にしたように思う」と良さん
を評している。そして「平成元年、七六歳でロッケしゃんが
亡くなった時は本当に悲しかった。彼の愛した故郷・湯前
町では一九九二年に『湯前まんが美術館(那須良輔記念館)』
を建て、政治漫画や愛用品などを展示して彼の偉業をしの
んでいます」と結んでいる。
ロッケしゃんとシロしゃんのふたりは同郷である奥球磨の
湯前町出身で同時代を生き、それぞれの生き方を尊重する

とともに協力出来るところでは進んで協力した。また、性
格の異なるふたりが自分の目標と向き合う中で、それぞれ
が周囲から温かい支援協力を得ているのも事実である。
それはふたりの目的は違っても正義と真実、平和を求め
るひた向きさへの共感であったと思う。現代に生きる私にとっ
ても郷土の誇りとして、また偉人としてふたりの人生を辿
る中で現代に通じる人生、歴史、故郷等多くのことを学ん
だ。同時にこの感動を私だけのものにしてはいけないという
思いである。
【むらきまさのり／川崎市】

参考文献

- 漫画生活五〇年 那須良輔 平凡社
- 漫画集団漫画集 北御門二郎 魂の自由を求めて
- 吉田から岸へ 那須良輔 毎日新聞社
- わが酒中文遊記 那須良輔 講談社
- 北御門二郎 魂の自由を求めて ぶな葉一 銀の鈴社
- ある徴兵拒否者の歩み 北御門二郎 みすず書房
- くもの糸 南里義則 不知火書房
- トルストイの涙 北御門二郎 青風舎
- 澤地久枝

哀

字の構成は《口+衣》。部首は【口部】。音はアイ。
哀歓・哀哭・哀愁・哀切・哀憐、と本当に悲しそうだ。
〈同情の声を寄せあうさま〉からへあわれむ・かなし
むとなる。昔「哀愁」という映画があった。愛し合
う二人の男女が別れに踊るダンスが「別れのワルツ」。

パチンコ店の閉店時に鳴るあの「蛍の光」だ。あの曲の原曲の歌詞はへや
あ、久し振りに逢えたなあ、今から一緒に酒場へ行つて楽しく酒を飲み、
踊り明かそうじゃないか」という陽気なもの。日本では卒業式の別れの
歌。……いつか、原歌詞を直訳した歌詞で、明るく歌ってみませんか。

印

「印」は印鑑、それを押されるものも印と言う。「判」
は手書きの署名で、本人しか書けない——のはずだっ
たが、印で捺したのも判と同じ効力を持ち、本人以
外の者が捺したものも有効ということになっている。郵
便物の配達を受ける時、手近かに印鑑がなく「サイン

でいいですか?」と訊くと、大抵「サインで結構です」との答え。――
逆じゃないのか! サインこそが第二で「サインが書けないので印鑑でも
いいですか?」が正統ではないのか。「日本印鑑撲滅協会」の方の名刺
の裏にはデンと「日本印鑑撲滅協会之印」が捺され、表は当然「日本
名刺撲滅協会」という肩書が。
【つるかみ・かんじ／人吉市】

もう一つの「明治維新」

— 壊滅寸前の仏教を救った僧侶「黙雷」⑥

富永和信

黙雷や赤松蓮城らの奮迅の努力
によって、明治政府の神道中心の宗
教政策を転換・軌道修正すること
に成功したことは前稿で述べた。

その中でも最も特筆すべきは政府
の出した「三条の教則」及び「大
教宣布」である。この二つの令は「政
府に神祇官制度を設け神道を国家
の基本教として、これを国民に教育
し広める」とするものであった。黙
雷は独特の強固な理論によって、こ
の政治と宗教を混同した政策に猛
反発し、撤回させたのである。この

ことは結果として仏教のみならず、
キリスト教を含めた宗教界全体を
救うことになったのである。

黙雷和尚はその生涯を仏法僧侶
として全うしたのであるが、青壮年
期においては、仏教復興のための
外政的対応に追われている。その後、
黙雷が直接関与した寺院や本山「本
願寺」での職責などについて主なもの
を拾ってみた。

黙雷は天保九（一八三八）年、
周防国佐波郡升谷の浄土真宗專照

寺四男として誕生。幼少にして同
郡堀村・妙蓮寺に入寺、同寺の反
対の中で、九州肥後山鹿の針水師
累世覺に遊学。そのため妙蓮寺よ
り絶縁される。

慶応二（一八六六）年、同郡島
地の真宗・妙誓寺の養子となり結
婚、長男誕生。姓を「島地」と改
め当寺の住職となる。

長州藩の「火葬禁止令」に反対し、
「防長二州真宗僧侶風儀改正」運
動を主導。藩令により萩・清光寺に
「改正局」を設置して、黙雷は「簡
寮職」に任ぜられ、寺院子弟の教
育指導にあたる。

明治元（一八六八）年、周防大島・
大州鉄然師、徳山・赤松蓮城と共に
京都本山・本願寺の改革のため
建言書を持って直接、門主に直訴。

それが認められ、本山改革に採用
された。
それのみならず黙雷らは、法王の
もとで改革案の立案、並びにその実
行まで携わることになる。

明治元年から同四年の間、本山
の改革と明治政府の宗教政策を改
めさせ、仏教復興に専念、身を投
ずることになる。そのため自寺の寺
務を果たせず、妻子と離別するこ
ととなる。

朝廷より「宗意如何」なる下問
あり、本願寺は黙雷の「真宗教導
大意」を提出、受理される。

次いで、政府の排仏稀釈政策の
転換を求めた結果、政府に「寺院寮」
を設置させる。

明治五（一八七二）年、西欧先
進国の宗教政策視察に宗教界代表

として長期出張。この視察で仏教と
りわけ真宗）の優位普遍性と同時
に弱点を学び、見識の高い僧侶に
なっていく。

その間、国の宗教政策「三条教則」
への批判建白書、次に国の排仏政策
の根幹をなす「大教院」分離に関
する建白書を提出して、国の宗教
政策の転換に導いた。

以上は（これまでの記述と重複す
る箇所もあるが）、黙雷の僧侶とし
ての本来の宗務の枠を越えた、政治
的な外的活動の歩みの要約である。

その後の僧侶としての歩み

黙雷はそもそも、仏教復興は僧
侶自身の世俗風潮の身を正し、仏
教本来の護法に徹し、布教伝教に



同寺内にある黙雷の墓（右側）と住職

岩手県盛岡市願教寺

勤めるべしと終始論じてきた。

明治政府の宗教政策の改変の目途がついたので自分の本来からの考えを実行に移すべく行動を開始した。

明治八（一八七五）年に白蓮教会（東京）を設立し、そこを拠点として仏教（真宗）の伝導布教並びに信者の教導にあたった。

明治九年に本山の教導職中教正に任命され、次いで臨時本山会議議長に就任。

明治十五（一八八二）年に本山・本願寺の二等巡教師に任命され、三年後に関東・東北の巡教師に任命。

明治十八（一八八五）年、明治二十三（一八九〇）年は、巡教総括として関東・東北・北陸地方の伝導布教に力を注ぎ、困難の中に

も多大な成果を納めた。

明治二十五（一八九二）年に岩手県盛岡・願教寺・住職に就任。女子学校問題に対する提言、海外宣教会会長に就任。

明治二十六年に本山局執行長に就任。
明治二十七年に本山勸学長職（最高学階）に昇任。

明治二十九（一八九六）年、明治三十年には勸学職として全国各地を精力的に法話講と巡教をして宗教心（仏教）の高揚に意を注いだ。更に足尾銅山の鉱害問題で現地に足を運び、その救済について政府に要請すると共に、社会にも訴えた。

明治三十六年に西本願寺門主明如入寂。その葬送の儀に当たる。

明治三十八（一九〇五）年、奥

羽布教総監任命、東京を引き払い、盛岡・願教寺に夫人と共に入寺。真言宗弱体の東北地方を中心に巡回布教、海外・台湾の布教も行う。

明治四十三（一九一〇）年、東北のみならず全国主要地区で講話・布教、さらに旧満州国に出張布教。

明治四十四年、前年までの無理が重なって一月、東大病院に入院。三月三日、入寂。法号「離言院」。二月七日、築地本願寺別院にて本山葬、遺骨は本人の遺言により盛岡・願教寺に夫人と共に眠る。

このように黙雷和尚は、波乱の明治に生きて、明治と共に消えたのである。 【つづく】

【とみなが・かずのぶ／山口市】

砂時計

— 思う出るままに — ⑨

小野武巳

【三】 母のふゆ

④ ドジエウの話

家族みんな、動物好きであった。母は「結局は私が世話をする羽目になるのに」と言いながらも子供たちの我がままを聞いて飼うことになるのだった。

ロンという雑種の雌犬と、ミーという雌猫を飼っていた。学校の帰り、家に近づくと「ロン、ロン、帰って来たよお」と呼ぶと、遠くから尻尾を振り振り全速力で駆け寄ってくるのだった。嬉しき余って、ごろんとひっくり返る。よしよしとお腹を撫でると、クーンクーンとなきながら僕の手を甘噛みし、顔をペロペロ舐めるのだった。そして、一緒に家に戻るのだった。

ミーの方は夜、僕の布団に潜り込んで寝るのが習慣になっ

ていた。しかし、猫は存外クールであり、夏の暑いときは、呼び掛けても知らん顔を決め込み、涼しい玄関の上がり框などに寝ているのであった。

夏も過ぎ、涼しくなってきた、ミーちゃんは咽喉をゴロゴロ鳴らして僕の布団に潜り込んでくるようになった。

そんなある日、小学校の教室の自分の席に、どしんと座った途端、僕は飛び上がった。しまった。

「痛てててーっ」

痛い方のお尻を浮かして、そーっと座り直したが、ずきんずきんと痛みが脳のでっぺんに沁みわたり、授業もそぞろであった。

なんとか我慢して二三日は過ぎたのだが、お尻の出来物は大きくなっていった。そーっと触ってみると手の平に余る位になっていて、パンパンしてカッカツと燃えているのが判った。ミーの蚤に喰われたところが化膿したのだろうか。もう我慢も限界だった。きつと、お尻を見せなきゃならんだろうし、ちよっぴり恥ずかしいなと思っただ、意を決して母に助けを求めたのだった。

「あら、そうなの、じゃ、お尻を見せてごらん」

案の定だ。

「ぼつてん、恥ずかしかがあ」

「そんなことないでしょうもん、親子なんだから」

僕は渋々パンツをすらす。

「ごたい。お尻の右側のトンガツた処が痛かよ」

「ありやりやりや、これは痛かつたやろうね。でっかいおできが出来て…、膿を出すといいんだけど…膿が出ると、すぐ良くなるんだけどねえ」

「痛ててて…、そがん力一杯押さんちゃよかろうもん。痛かがねえ」

僕は腹這いになつたまま、握り拳で畳を打つ。

「ターちゃん、ドジョウはいないやろか」母は言う。

「ドジョウ？ ドジョウは捕つてきて、どがんとつとつ」

「寒うなつたけん、もう捕れんばい」

「だけど、一匹や二匹、捕れんじやろうかね」

「ドジョウを開いて、出来物に湿布すると膿の出るとよ」

「ふうーん、富山の薬のタコの吸出しのごたつたいね」

ここまでは大好きな野球で動き回るにも不便だし、あまりの痛さに耐えかね、早く治りたい一心だった。

夏には暇さえあればザルを抱え、ヒルに吸い付かれながらも魚すくいに興じた、あの田圃の側の泥川を思い浮べ

た。まだ明るいぞと縁側の下からザルを取り出すと、痛いお尻を庇いながらゴム長に足を通した。

「お母さん、行つてみるけん。ドジョウのおるかどうか、判らんばつてんが」

僕はバケツを左手に、ザルを右手に持ち、足を引きずりながら現場に向かった。

ザルを冷たくなった流れの底の泥に差し込み、右足で枯草や泥を一緒にぎぶぎぶとザルの中に押し込む。そしてザルを持ち上げ、ざあーと水を落とす、ザルの中の泥をかきわけ。ドジョウさん、ドジョウさん居ないかな、と独りブツブツ言いながら…。

やつぱり無理かなあ。夏だったら、いくらでも捕れるのに。

もう一回、もう一回と頑張る。お尻が痛い、何とかしなくちや…と頑張る。

もう駄目ばい…ドジョウはおらんばい。すっかり諦め、最後にザブザブして、引き揚げたザルをポイと畦道に放り投げた。と…ザルの泥がごそごそと蠢蠢いてるではないか。

「うむ、なんだ、…おつ、やったあ、おつたあー」

僕は知らずのうちに、一人バンザイをしたのだった。10センチ足らずの小さなドジョウが二匹も入っていた。大事

にバケツに入れ、小躍りしつつ家に向かった。気のせいかなお尻の痛みが柔らでいるようだ。

「お母さん、捕れたバイ、二匹も…」

僕は泥のついたゴム長を脱ぎ散らかして上がり込むと、裁ち台に座っている母にバケツを差し出して見せた。

「あら、あら、縫い物が汚れるがね。バケツを下に置いてごらん。あら、ホントに良かったね。ターちゃん、これでおできがいつべんに治るけんね」

母は裁縫を中断して台所に立った。モミキリと包丁を取り出すと、なにやらブツブツと独り言を言いながら作業を始めたのだった。

それは僕の耳にこんな風に聞こえた。ドジョウさん、ごめんさいね。ターちゃんの出来物を、早く治して頂戴ね。僕は母に促され、腹這いになり、パンツをすらす。ドジョウの開きは、お尻にヒヤリとして心地良かった。

その夜、僕はなんだか安心しきつて熟睡したようだ。

朝、ご飯の時、この夏の父の大工仕事による掘り炬燵にいつものようにドシンと座ってしまったのだが、あれれ、何とも無かった。お尻の痛みは無かった。

登校前、僕は腹這いになって、母にお尻をさらけ出す。

「ターちゃん、ほら、こんなに沢山、膿が出るよ。もうすぐ治るけんね。パンツを着替えて行きんしゃい」

母の手製の白いパンツにはドジョウさんが吸い取った膿がべつとりであった。そしてお尻の痛みは嘘のように消えていた。

何故か、シー坊まで「お母さん、僕のお尻も見てえ…」とパンツをすらすして可愛いお尻をクリクリさせている。

良かった、これで、お尻を心配せずに精一杯、野球が出来るというもんだ。

「ターちゃん、バケツのもう一匹のドジョウさんね、学校から帰ってきてから、田んぼに逃がしてあげなさいね。おできはすっかり良くなったんだから」

「はい、判つたよ」

「お母さん、行つてきまーす」

いつになく大きな声出して言うつと、足取りも軽やかにいつの間にかスキップを踏んで、学校に向かったのだった。

背中のレストランもカタカタいわせながら嬉しそうだ。

「ターちゃん、ねえ、待つてよお」

後ろから妹の声が追いかけてくる。

【おの・たけみ／小児科医院院長、宮崎市大塚町】

倉敷便り

31

絵と文／原田 正史

倉敷市由加山

倉敷市児島の由加山（274m）山頂に存在する蓮台寺、並びに由加神社を訪れました。蓮台寺は真言宗室派の別格本山であり、寺伝によると天平六（734）年に、行基によって開基された古刹です。江戸時代には、岡山藩主池田家の祈願所として厚遇されました。現在、県重要文化財に指定されている客殿は、このような背景のもとに寛政十一（1799）年に再建されたものです。

平面は桁行十二間、梁間七間半の大型の建物であり、書院造りの古

制を踏襲しています。屋根は入母屋造り、重層、本瓦葺きの堂々たる客殿です。近くにある、同じく県重要文化財の蓮台寺多宝塔は、天保十四（1843）年に再建された県内最大の多宝塔です。広い広場を境にして蓮台寺と対面する県重要文化財の由加神社本殿は、権現神として手置帆負命、彦狭知命の二神と、本地仏として阿弥陀如来、薬師如来を祀ります。なお本殿は延宝二（1674）年の再建です。

由加山山頂には迂回して自転車でも行けますが、本来の通路は鳥居が建てられている麓の平坦部から、頂上を目指して直線状に築き上げられ

た石段があります。恐らく三百段を超えると思われる頑丈で幅の広い花崗岩製の石段で、その両側には歩道が設けられています。石段の基部に立つて斜度三十度に迫る急角度を見せつけられると、最後まで上り切れるだろうかという不安が心をかすめます。石段を上って頂上を目指す人は全く見当たらず、一人だけの挑戦となりました。石段は上・中・下の三つに区切られており、途中の二ヶ所に踊り場がありました。息が上がった時に落ち着かせるための踊り場でしょうが、石段の築造者には一気上りは予想外のことだったと思われるます。

ままよとばかり覚悟を決め、頂上を目指して一気上りの開始です。私は若い時から地質調査などで山道を登る時は、上方に設定した目標に向かっ

て、出来る限り休まないで進むのが信条です。踊り場に着いても休まず、そのまま突き進み、ギブアップ寸前に頂上に到達しました。満九十一歳で、由加山の石段の一気上りを達成した者は私以外にはいないでしょう。ひよつとすると初めてのことかも知れません。ちなみに由加山のことを教えてくれた友人の小原氏は六十代ですが、呼吸器に問題があり、この石段を登る時には同行者に手を引っ張ってもらったとのことでした。



蓮台寺多宝塔

小原氏によると、由加山を含むこの二帯は昔、瀬戸内海に浮かぶ島であり、由加山にお参りするには、最寄りの田の口港に舟を着けねばならなかったそうです。また四国の金比羅参りをした人の中には、由加山まで足を延ばした人も多かったようです。由加神社の境内には、江戸時代に大阪の商人たちが寄進した金品の数々が刻記された石柱が残されています。その石柱の中に、親分の清水の次郎長に代わって金比羅詣でをした子分の森の石松がその帰路、由加山に立ち寄ったと刻記されているものがあるそうです。森の石松についてはこれまで、博徒物語の主人公であって、自分には無関係な人物だと思っていました。しかし今回、由加山参道基部に据えられた石造の大きな鳥居の前に立った時、江戸時代の末期

のある日、愛用の長ドスを帯刀した石松が同じこの場所に立つて片目を鋭く光らせながら、天空高く重なり続く石段を覗みつけたに違いないと思ふと、何とも言えない親しみを感ずりました。

以前は、平日も由加山参りをする人が数多くいて、賑やかだったそうで、特に初詣には多くの人が押し寄せ、岡山県下で二番目の人出だったとのことでした。なお、県下一番の人は、豊臣秀吉の水攻めで有名な高松城近くの高松稲荷だったそうです。現在訪れる人も僅かであって、参道入り口付近に残されている、利用者があるとは思えない小さな郵便局に、昔の繁栄が僅かに偲ばれるだけです。

【はらだ・まさふみ／日本地質学会会員、倉敷市】

年念し
450 誕生
下ろし
書き
生記書

小説・相良清兵衛

19

山口啓二

夜が明け、一段と深い霧の中まだ朝日が上がらぬ時刻に、深水宗芳と犬童休矣らは早速頼貞のいる七地の常秀寺に挨拶へ馳せ参じた。

「頼貞様、此度は良き頃合いにおいでくださりました。

先君義陽公があいいう形でお亡くなりになり、なにせ亀千代君もまだ幼少、薩摩の島津殿との交渉もいまだ上手くいつてはおりませぬ。この度頼貞様が家督を継がれるとあらば千載一遇、亡き先君在るが如きでありましようや。しかし多良木や久米・湯前湯山の同意を取り付けませんといけません。さていかがしましょうぞ。この上はじかにお出向きなされて御意向をお伝え下されませぬものかと」

「そうか、多良木や久米は余が従わせるゆえ問題はないと思ふのじゃが。そうじゃ、善は急げじゃ、早速これより出立いたそう」

そう言うつと供を連れてまだ深い霧の中を上相良へと向かった。

「球磨の連中もまさか頼貞が乗り込んでくるとは思わなだらうつ」

「いざいざしまするな、こども事がうまく運ぶとは、あの頼貞もやりますなあ。しかし八代が手に入るならば家督は頼貞に継がせたほうが後々都合が良くはございませぬか」

「そうやもしれぬが忠棟、余は義陽殿の死を深く悼まなければならぬ。故に家督は四郎太郎に継いでもらいたいのじゃ。世継ぎがまだ幼少の四郎太郎になるほうが今後の付き合い方も楽であろうて。もし八代を渡さぬと申すなら頼貞に継がせて球磨を任せればよい事じゃ。余は頼貞はあまり好きではないので継がせたくなはないのじゃが、あ奴なら余の言うことは何でも聞くはずじゃからな」

「左様でございしまするな。しかし薩摩が後ろにいることはゆめゆめ感じさせてはならぬかと」

「ん。そこにいるのじゃろう秀源坊、今聞いた通りじゃ。そちはこれから直ぐに相良に出向き、深水

【前回までのあらすじ】島津義久より阿蘇氏攻めを命じられた相良義陽は、響野原に本陣を敷いたが相良勢は壊滅。義陽は宗連の家臣に斬り殺され、以後島津の支配となっていく。

案じていた通り、先君亡きあと謀反を起こそうと策略する頼貞に、島津が入れ知恵をしたのは間違いないと思われた。

その頃薩摩には観音禅寺の修験僧周察が深水宗芳よりの密書を持参、島津義久その従兄の伊集院忠棟と会っていた。「そうか頼貞がのう。して球磨からは四郎太郎殿を世継ぎとする旨の知らせを受けておるが、頼貞が球磨から撤退すれば深水殿や犬童殿も異存は無いのであろうて。では返事はこちらから人を使わずにそう申し伝えられよ」

「は、承知つかまりました。どうか吉報をお待ち申し上げます」

僧・周察を送り出した義久と忠棟は事が狙い通りに運んでいるのをほくそ笑んでいた。

宗芳に今の事申し伝えよ。八代をくれれば四郎太郎殿の世継ぎを認め、頼貞を引き揚げさせる、とな」

薩摩一の密偵で修験者の秀源坊は先ほどから二人のやり取りをとなりの部屋で聞いていて、襖を開けると義久の前に進み出て平伏した。そして球磨の動向を報告した。

「承知。いま球磨は二つに分かれている様子にございます。ただ頼貞が家督を継ぐとなれば球磨は大混乱し、そう長くは持ちますまい」

「そうか。であればやはり頼貞に家督を継がせたほうが球磨全体を奪うことも出来ましようや」

「いや、球磨などはあとでどうにでもなる。先ずは八代をいただき、それから童造寺や大友を攻めて筑紫の全土を我が島津のものにするのじゃ。秀源坊、この書面を持って直ちに球磨へ向かいその旨を深水に伝えてまいれ。条件を呑んだら頼貞を引き揚げさせると」

『ははっ』と言ったが先か、すでに秀源坊は闇の中へ消えていた。

深夜、秀源坊は深水宗芳の屋敷に忍び込むと、そっと寝間まで侵入し、宗芳の枕元でその旨を伝えた。寝付かれず

■主な登場人物

相良清兵衛（犬童頼貞）＝相良家 家老
相良頼貞＝相良氏当主・晴広の次男
深水宗芳＝相良氏の家老
犬童休矣＝相良氏の家臣

にうとうとしていた宗芳であったが、その侵入の手口さえも全く判らずに肩を押さえつけられ、口をふさがれてしまっていた。

「うっ、ぬあにやつつ!!」

「宗芳殿どうかお静かに。拙者島津義久公の手のもの、義久公からの密書でござる。ご納得いただければ直ちに頼貞殿を引き揚げさせます。」

そう言つて一通の手紙を差し出した。

すぐに状況を悟った宗芳は蠟燭に火を付けると、手渡された密書を開いた。そこには『八代を手放せば頼貞を引き揚げさせ、願いの通り四郎太郎君を世継ぎとする』旨が書かれていた。

「なんと、八代を手放せとな。さてさて。この儀、拙者の一存では決めかねるよつて、明朝早速衆議を致すゆえ、そなたそれまでお待ち下されぬか」

「深水殿、さもあろうが、我が御屋形様は今日中に返事を持参せよとの仰せにござる。でなければこのまま頼貞殿が相良家家督を継がれることに相成りましようぞ」

「なるほど、拙者の一存で決めると申されるのじゃな。あい解り申しした」

源坊の話聞いた。

「御苦勞であつた秀源坊。して深水宗芳の返事はいかがであつたか」

「は、御屋形様のお察しの通り宗芳は八代を手放すことを何とか承知はいたしました。御屋形様には四郎太郎君の元服の烏帽子親になつて欲しい旨、さらに島津の御名の一文字を戴きたいと申しております。なかなかしたたかな奴にござりまする」

「ほう、余に烏帽子親になつてくれとはな。さらに二字までくれとはまさしく忠義な家臣のう。流石は誉れ高き相良の筆頭家老じゃ。まあ八代が手に入ればそれもよからうて。この忠棟、早速飯野に申しつけて頼貞を連れ戻すのじゃ。くれぐれも我々の策略である事を悟られぬようにな。我々の約定が偽りのないことを相良に示さねばなるまい」

相良大膳助頼貞はその頃多良木の地頭岩崎加賀守宅にいた。義久からの命が下り即座に相良領から撤退することに なつたが、義久の企みとは全く知らない相良の武士二百名ほどが頼貞に従つて相良領をあとにし飯野に向かった。だが島津義久は頼貞の薩摩帰還を認めず、頼貞はそのまま日向に伊東氏を頼つたが、その後問もなく薩摩に討たれてしまつ

少しばかり時間を置いてさらに、

「それならば拙者から島津様に二つだけ条件がござる。仰せの通り八代は手放すとして、四郎太郎君の名付け親として島津家の二文字を戴きとうござる。それと、四郎太郎君の元服の烏帽子親を是非とも義久公に引き受けていただきます」

「ほう、島津家と相良家が親子となるべき誠にもつて名案を考えられましたな。なるほど、流石は相良家の家老・深水宗芳殿じゃ。その儀はしかと御屋形様にお伝え申す」

秀源坊はそう言つて義久公の密書を取ると、それを蠟燭にかざして焼き捨て、その灰を掌で握り潰し懐紙に包み、懐に収めて蠟燭を消し屋敷を後にした。侵入した時も定かではなかったが、部屋を出て行く時も全くわからなかった。

『これが真の薩摩の忍びか。聞いてはおつたが怖い存在じゃのう』

冷や汗がどつと出た。

その夜遅く、島津の屋敷に戻つた秀源坊は早速義久の元へ進み出た。

到着を待ちかねていた義久は身を乗り出すようにして秀丸は名前を四郎次郎と称し、これに伴い義久は出水に新しい立派な館を建てさせた。

明けて正月、井ノ口八幡での籤で人質と決まつた次男の長人質が兄弟入れ替わり、四郎太郎は宗芳や休矣ら、迎えに来た家臣団とともに球磨の館にとつて返し、しばらくのちに届いた島津義久からの烏帽子や羽織袴、さらに祝いの品々に加え、島津御名の二文字『忠』を貰い受け名を『忠房』と改め、盛大に元服の儀を執り行つた。

前年の暮れ、義陽公の弟君・頼貞が球磨に侵入した際、湯山の地頭であつた佐渡守宗昌と、その弟である普門寺第五代僧法盛は、大膳助頼貞に御味方いたすと申し入れて来た。そのうち混乱も収まり、当主となつて元服も済ませた忠房公は、宗芳、休矣ら家中の者と相談をしてこれを討つべし、という結論になり、すでに湯前や米良には湯山定昌一族を成敗するように指示していた。しかし頼貞もすでに薩摩領に引き上げ、湯山の宗昌も普門寺に入り謹慎したので、三月十五日に家臣犬童九介に馬を走らせ攻撃を止めさせ、追つて指示を待つよう差し向けた。

「おお、九介どん、何をそのように慌てておられる。馬も足を怪我をしておるようだが手当てをしてしばらく休んで行かれぬか」

昼過ぎに城を出て免田の築地まで馬を走らせていた九介に声を掛けたのは、野良仕事をしていた旧知の男・定吉であった。

「おつ定吉どん、久方ぶりじゃのう、嫁御や娘予らは達者にしておられるか」

「ういばでござる。みな息災に御座ればちよつと顔を見せに寄られぬか。馬もえらく弱つてる様子じゃ。隣の馬飼いに世話させますので。そうそう、積もる話もあるゆえ、ちよつと一献傾けましようぞ」

となり、ことのほか大の酒好きの犬童九介はここで生涯最悪の大失態を起こしてしまつたのである。土台この度の重要な役目に九介を充てたというのがそもそもの間違いであつた。球磨のキチガイ水は犬童九介の意識までも無くしてしまい、ひどく泥酔した九介はそのあと何か多良木・柿の木園まではたどり着いたものの、そのまま路傍で酔宿してしまつた。肝心の伝言は伝わらなかつたのだ。

そうとは知らぬ湯前、須木、米良の士たちは翌三月十六日早朝に普門寺に押し寄せた。兄の湯山佐渡守宗昌は、こ

長男であるこの時の藩主十九代忠房公までもが病死してしまつたこととなる。これが相良に残る『化け猫騒動』である。その後盛誉の兄の宗昌は身の潔白が証明され、日向から戻り相良武士として豊後攻めなど幾多の戦いに参戦、その後朝鮮・文禄の役へと出兵したが、舟が釜山浦に着くとすぐに病死した。朝鮮の役での相良軍最初の死者であつた。

寛永八（一六三一）年春、新しい市房神社は完成した。市房山は郡内一の高さであり、この地では霊峰として古来より崇められてきた山だ。この参道には樹齢千年に達する杉の古木が四十五本以上もある。その数は日本最多だ。

普門寺も「千光山生善院」と名を変えほとんど完成、京都の仏師・式部による千手観音と阿弥陀仏像を安置し、愛猫『玉垂』の供養塔も建立された。僧勢誉の命日の三月十六日、長毎公は早速家中の者を大勢引き連れ市房神社参詣に向われ、勿論生善院にも立ち寄り供養された。ここはいま俗称『猫寺』と呼ばれ参拝客に親しまれている。それから毎年三月十六日が『お岳さん参り』の吉日となつたのである。

(つづく)

【やまぐち・けいじ／人吉市】

の時すでに事を察してか椎葉を越えて日向に逃れたらしく留守であつた。朝の読経中の弟、僧盛誉は弟子珍祥・出雲の二人の若き修行僧と共に仏前で香を焚き経を読んでいたが、米良の黒木千右衛門らには有無を言わずその場で三人を斬り殺してしまつた。

普門寺の僧盛誉の母・玖月尼はそれを知り深く悼み、姪の鶴菊と愛猫の『玉垂』を連れ市房神社に籠り、三十七日間の断食のち、我が指を噛み切りその血を市房神社の狛犬に塗りつけ、また愛猫『玉垂』にその血を飲ませ呪文を唱えたあと、鶴菊と共に近くにあつた湯山の茂間崎の淵に身を投げて亡くなつてしまつた。

『我が子の恨み、果たさずしてなるものか。このうちは祟りとなつて孫子の代まで呪つてやる』

その強い呪いによつてか、数日のちに黒木千右衛門と犬童九介は狂い死に、その上湯前や米良、須木の諸士はじめ、この事件にかかわつた免田築地の定吉一族にまでも災いが起こつて幾人もが亡くなつた。事件の翌年にはあつたことか忠房公の姉で義陽公の長女・虎満姫が急に奇妙な病にかかり、八月二十七日十八歳の若さで亡くなつた。虎満姫の夢枕に黒猫が何度も出たらしい。更にその一年半後の二月十五日には

すべての人を自分の親だと思つて…



- 一 人 介 護 所
- 特 別 善 護 老 人 介 護 所
- 短 期 入 所 生 活 介 護 所
- 通 所 介 護 事 業
- 居 宅 介 護 支 援 事 業

社会福祉法人 天雲会

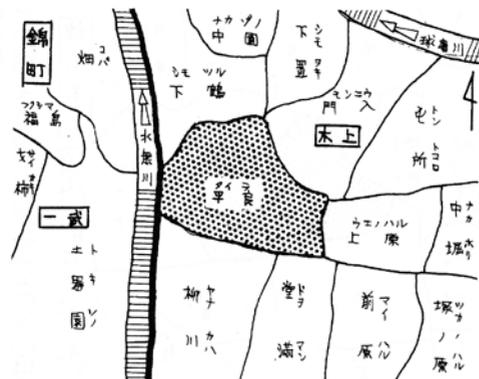


〒868-0086 人吉市下原田町瓜生田1057-9
施設部門 ☎0966-22-6621 FAX 0966-22-6622
在宅部門 ☎0966-22-2141 FAX 0966-22-2183
URL: www.ryuseien.jp
E-mail: tenunkai-daihyou@ryuseien.jp

平良 (タイラ)

— 錦町木上 —

地名用語としての良 (ラ) について知るまでは錦町木上字平良が妙に



気になった。タイラならば平だけでよさそうなのに、どうして良がつくのだろうか。見事な平地のことだろうか、などと思ったりした。

『大言海』を見ると、接尾語のラは二種に分けて説明してある。

①は等の漢字で表されるラ。これは群 (むら) の略で、複数を示す。われら (我々)、きみら (君達)、子ら (子供達) など。また物ごとをおおよそに指して言う場合、あちラ、幾らなど。それが転じて複数でなく一人の場合でも私ら (私) のように使われる。②は仮名書きのラで、語の末につけられるが、意味はないものの、リ・レ・ロと変化する。ヘラ↓ヘリはその例。

【おことわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版で、合併前の町村名をそのまま使用しています。

これによつて、平良のラは接尾語②の「意味のないラ」に該当することがわかる。分類としては米良、目良生、平良の「良」は接尾語のラではあるが、意味は違うのである。メラは境目のあたりとボカした表現であるのに対し、平良はヘラ・ヘリで辺 (へり) のことと理解される。木上と二武の境界を流れる水無川のヘリを平良と表現したのであろう。平良をヘイラ↓ヘラと読めば意味がよくわかる。

理屈ばかり並べて申しわけないが、平凡すぎる表現を平等平等 (へらへいとう) という。これは漢書の文選 (もんぜん) の書を音で読んだ上に

和訓を重ねることから文選読 (もんぜんよみ) とさげすまれた。ところが、案外と現代の日常語にも使われている。片時へんじも忘れず、かてて加えて、水泡と化して水のアワと消える、などの類である。

地名の話にもどせば、玉名郡三加和町板楠に平平 (ヒラダイラ) という字名がある。これは平 (ヘラ) の文選読の典型であつて、平の一文字で済むのをタイラの訓を重ねてヒラダイラとし、平平の漢字を当てたのである。平良も平等平等が省略されて平等 (ヘラ) だけになり、平良になったのであろう。

熊本県内の他町村字名でヘラの文選読と思われるものとして次の地名がある。

▽玉名市月瀬字飛羅平 (ヒラダイラ) ▽菊池郡旭志町麓字比羅平 (ヒ

ラタイラ) ▽菊池市竜門字平羅石 (ヒライイシ) ▽熊本市旧池上村字平羅石 (ヒライイシ)

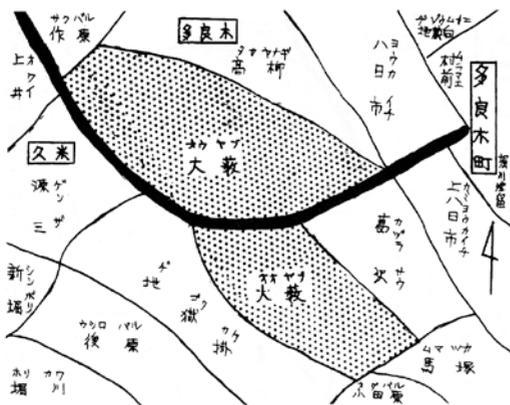
沖繩にも平良 (ヒララ) という地名があり、鹿児島県には比良々崎 (ヒララサキ) があるのを考えると、平等平等 (ひらへいとう) という文選読みは或る時代、識字層 (インテリ) の流行語だったのかもしれない。地名用語の平はヘラ (ヘリ) と考えれば間違わない。

大敷 (オオヤブ)

— 多良木町 —

多良木町多良木字大敷と久米字大敷は境界を挟んで隣り合っている。

球磨地区の字名では敷地名は十五件あり、うち七件は大敷。上村には東



と西に字大敷がある。字名は一村一品が徹底していて、同じ村には同じ字名は一つしかないのが大原則であるから、上村の東部の大敷と西部の大敷はムラが別であつたことがわかる。敷地名については、コバ焼きの火入伐りというのにちなんで、焼畑地名

我們提倡使用「一個切」和「兩項對照組合」的二行俳句書寫

世界に二行書きによる「切れ」と「取り合わせ」を取り入れた Haiku を提案する

穆仙弦

● 天界女神抛下の繡球
紫陽花

〔永田満徳評論〕

不偏限於紫陽花裝飾庭園的功能，作者將滿滿的一簇形容為「天界女神抛下の繡球」，是相當有創意的。因著這個比喻，紫陽花的美麗也增添了幾分仙氣。

穆仙弦

● 天界の女神が投げた刺繡のボール
紫陽花

〔永田満徳評〕

花の部分は裝飾花であるが、大柄な「紫陽花」を「天界の女神」の「刺繡のボール」に例えているところがいい。この比喻によって、紫陽花の美しくも神々しい様が描かれている。

林國亮

● 雙手端上新茶
成績表

〔永田満徳評論〕

學生拿到成績單之後，為了感謝老師給的好成績，雙手端上新茶。以「雙手」來表示對於神佛，或對於老師的敬虔態度。

林国亮

● 両手で新茶を捧げる
通信簿

〔永田満徳評〕

この「通信簿」はよほど良かったのであろう。成績の結果に感謝を込めて、「新茶」を献上しているのである。「両手」で捧げているところに、神仏に対する敬虔な気持ちが込められている。

露兒

● 螞蟻
男女的竊竊私語通過

〔永田満徳評論〕

螞蟻悄悄的工作。旁邊的男女悄悄地說著只有他們倆才懂的話語。此兩項對照組俳句刻畫了夏季繁茂的樹木下，一個寂靜的午間情景。

露兒

● 蟻
男女のヒソヒソ話が通り過ぎる

〔永田満徳評〕

「蟻」のひそやかな営みと、その傍らを通り過ぎる「男女」の二人だけに分かるひそひそ話との取り合わせによって、夏木立の森閑とした情景がおのずから浮かび上がって、とてもいい。

【ながた・みつのり／俳人協会会員、熊本市】

とする説もある。錦町二武字大藪は字切原野（キリハラノ）と接し、その切原野の隣りは字火口出（ヒクチデ）になつていて、一帯の小字が焼畑関連用語である点から、一武字大藪は焼畑地名との主張には異論が唱えにくい。しかし、字図を見ると大藪は西村との境界に近いし、焼畑に頼っていた地形とは思えず、大藪をコバ焼きのヤボ伐りに由来するといふ説には首をかしげざるを得ない。

ヤブの表記は彌生、野父、養父などがあることから養老の瀧で知られる養老地名も、ヤブ↓養生↓養老（やおい）↓ヨウロウの転化であろう。養老山地は岐阜・三重県境、肥前国養父郡は筑前・筑後国との国境（現鳥栖市一帯）。弥生時代、彌生式土器の名称になった東京都文京区の弥生（ヤヨイ）も『大言海』の言う彌生（ヤブ）の義であろう。

共有地のヤブは集落近辺にも存在したものの地域開発、土地細分化がすすむにつれて辺地・僻地のヤブが入会地として残り、結果的にはヤブが境界緩衝地帯の役割を果たすことになった、と見ることができようか。

『山鹿市史』（別巻）所収の「山鹿郡村誌抄」には各村ごとに「林森「原野」の項が付してある。この森林・原野が共有・入会地のヤブと同じものだろう。ヤブは上世以来続いていたムラ共同体の慣行である。

【うえむら・しげじ／宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

稲留三郎の世界 ⑭

年中行事七月の巻

前田 一洋



■七月七日 七夕

姫と言う

牽牛 織女の二星を祭る。公事根

源に言う「七月七日の夜に入りて、気巧奠あり。御殿の庭に机四脚をたてて、灯台九本おのおの灯火あり。机の上に色々の物をすえたり。夜もすがら空焚き物あり。たらいに水を入れて大空の星を写す。五色の糸を竿に懸けて手向けける、これを願いの糸と言う。天の川原の西にあるを牽牛、東にあるを織女と言う。又、ヲ(男)たなばたを彦星、メたなばたを織り

解説

『公事根源』は『公事根源抄』ともいう。朝廷の年中行事を十二ヶ月に分けて、それぞれの由来を解説した書。一条兼良の撰で応永二十九(1422)年の成立。現存しない行事や、これを通じての民俗信仰を伺いうる好資料。(ブリタニカ国際大百科事典)

このように貴重な資料に稲留三郎はどこで接したのであろうか。文政七

夕の行事が残っている。

そうした日本古来のお盆行事に、公事根源にあるような中国渡来の、ノウイ、伝承が習合して、今のような形になった。今年竹の枝先に短冊を下げたり、西瓜などの絵を吊すのは、両方が一緒になった名残りであろう。

○

七月十五日 中元と言う(正月十五日を上元、十月十五日を下元)孟蘭盆とも言う。聖武天皇天平の頃より始まり。子たるもの両親を祝いて、礼をなすなり。在方(田舎のこと)では盆踊り、シヨンガ踊りあり。その歌は、「シヨンガ 祖母様出て見やれ孫連れて シヨンガホー」

盆灯籠を用いること、後堀河院の寛喜年中(1229~1232年)に起こりて今に至る。藤原定家の、「明月の記」に見えたり。

明治の初めまでは切子灯籠切り下

げて灯籠を墓場に盆中灯す。今は丸灯籠を内に灯す。

○

七月十六日 野父入り 娘脇に縁づき、又は奉公先より我が家に戻り、休息するを野父入りと言う。その時のことば、「盆でみんな、ふうとしやつつろう。ジイ ババも、がんじゅうかつつろう。まあ、みんな達者でよかぬう」

○

越後高田辺の盆踊り

「米大将と潮来とはこの地方の盆踊りの名に候。十三日より十五日まで、毎夜太鼓の響きは各村に起こり、天明まで絶えず候。米大将と申す踊りは、手足運動すこぶる緩慢にて、これを見物いたし候ときは、何やらん我が身の遷流かくの如く、速なる世界

(1824)年に須恵村で生まれ育った三郎は、まさに神童であったために十三歳で願成寺に入つて、十五歳まで学問に励んだ。おそらく、ここでの学習過程で出合ったのかも知れない。また、参勤交代にも度々参加しているので、江戸の藩邸の書庫で繙いたとも考えられる。

元々「タナバタ」というのは、お盆行事の一環であった。つまりこの日からお盆が始まっていたのである。そのため墓や仏壇の掃除、そして、あの世から里帰りなさる精霊様をお迎えするために、庭先きに柵を設けて野菜や果物などをお供えた。また精霊様のお名前を書いた旗を立てていた。まさに「柵旗」である。

現在でも、かつて本誌で紹介された芦北町の白木集落などのように、わらを用いた作り物を谷越しに飾る七

にあるを忘れ申し候、その歌は「そらよーいやさーはーよーいやさーへーへ 大将 いーなーかいーなかなーれーどーもーかーなーやーのやーくーしはーはーなーのーねー そりゃよいやーさー よいやさーはーなーなのたーかーたーはめのしーたーだ 田舎なれ共金谷の薬師花の高田は目の下だ

解説

三郎はこのように他藩の民俗行事、さらには方言にまで深い関心を持ち、記録したり比較検討を行なっている。その学究的なすがたは、まったく頭の下がる思いである。

のーさーめのしーたにて (という具合に) 単調極まれど、泰平の昔を出し申し候

【まえだ・かずひろ／人吉市】

前号【くまがわ学習塾③⑩の答え】

問1 人吉市の歴代市長名を書け (例: 松岡隼人)

- ① (小出政喜)
- ② (黒木儀寿圭)
- ③ (淵田長一郎)
- ④ (永田正義)
- ⑤ (福永浩介)

問2 「直」を使った熟語を書け (例: 正直)

- ① (直下)
- ② (直行)
- ③ (直伝)
- ④ (直径)
- ⑤ (直参)

問3 次の文書は正しいか誤りか。正しいときには○を、誤っているときには×をつけよ (例: 参議院議員の任期は6年である。○)

- ① 参議院議員は内閣総理大臣になれない × 憲法 67 条 1 項は「内閣総理大臣は、国会議員の中から国会の議決で、これを指名する」と定める。同項にいう「国会議員」には参議院議員も含まれる
- ② 内閣総理大臣は参議院を解散できない ○
- ③ 自民党の参議院比例区で当選した候補者は当選後に共産党の議員にくら替えできない ○ 国会法 109 条の 2 参照
- ④ 参議院議員は都道府県に最低 1 名は居る × 「参議院合同選挙区」(「合区」)がある。たとえば、鳥取県と島根県、徳島県と高知県は「合区」である
- ⑤ 衆議院議員は「代議士」というが、参議院議員は「代議士」と呼ばない ○ 明治憲法の衆議院・貴族院の二院制時代に、衆議院議員を「代議士」と呼び、その用法は現在でも定着している
- ⑥ 衆議院だけでは予算を可決し、法律を制定できない × 憲法 59 条第 2 項、同 60 条第 2 項参照
- ⑦ 参議院選挙の供託金の金額は選挙区と比例区では異なる ○ 選挙区は 300 万円、比例区は 600 万円。公職選挙法 92 条第 1 条第 2 号、同 3 項参照
- ⑧ 参議院議員と衆議院議員を兼任することはできない ○ 憲法 48 条参照

問4 い草の産地を書け (例: 熊本県)

- ① (福岡県)
- ② (佐賀県)
- ③ (広島県)
- ④ (石川県)
- ⑤ (高知県)

★熊本県のシェア率は 98.3% で、2 位の福岡県のシェア率は 1.6%。他の地域は統計上有意な数値を算出できない。

お休みどころ通信 ⑧

禁煙について

精神科医 興野康也

僕が勤務している吉田病院では、7 月から敷地内禁煙を実施することになりました。また産業医をしている役場でも衛生委員会で議論して、屋内禁煙をすることにしました。そして役場の職員向けに禁煙についての産業医講演をするように依頼を受けました。

引き受けたものの、身近に吸う人がいなかったこともあり、禁煙について学

んだことがほとんどありません。産業医の研修会で、大手企業で敷地内禁煙を実現した方のお話を聞くことがありましたが、禁煙は相当人念に緻密に段階を踏んで進めていかないと難しいという内容でした。

調べそうなテキストをインターネットで検索すると、『禁煙学』という本が見つかりました。これを参考にして講演をすることにしました。



【禁煙学 改訂3版】(編著: 日本禁煙学会、南山堂、2014年)。大変内容の濃い本だが、読み通すのは大変だった

ところが読むなかで痛感したのですが、普段自分が実践していることでないことは、読むのに時間がかかり、理解が浅くなり、身につけにくいのです。これでは実のあ

る読書とは言えません。テキストを要約するのは期限ギリギリで、本の内容をもとにあれこれ深く考えることはできませんでした。

『禁煙学』を読んで感じたことは、タバコの害の医学的な怖さと深刻な依存症、国際的な「禁煙促進」活動で日本が遅れていることでした。

予防医学と云うのはなかなか成果の出ない分野ですが、禁煙は確実にかつ強力に人々の健康状態を改善するところがわかっていきます。精神科スタッフとしては、依存症支援に努力すべきでしょう。

僕個人は発達症の人たちの支援に取り組んでいます。発達症はゲーム依存を含む依存症を合併しやすいです。発達症+依存症のケースへの支援に努力していきたいと思えます。

【おきの・やすなり/人吉市】

現代社会の基礎用語

①

1、「会計年度任用職員」

地方自治体には正規職員と非正規職員がいる。全国的にみると、後者は地方公務員の約3割を占め、現在では、非正規職員ぬきに自治体業務は成立しない状況に至っている。各自治体は、それぞれの財政状況などを考慮しながら、非正規職員をさまざまな法令に基づいて採用してきたが、政府は任用方法として「適切でない」例がみられるとして、地方自治法と地方公務員法を改定し、「会計年度任用職員」制度を新設し、

来年4月1日から、非正規職員の大半は同制度の適用対象者になる。

そのため法律は、各自治体に同制度についての条例制定を義務づけているが、各自治体の実態を考慮に入れない、一律的措置のため、条例案策定作業は難航している。同制度のもとでは、非正規職員も条件を満たせばボーナス・退職金を支給することとされている。同一労働同一賃金の原則からみたら、当然の措置だが、自治体幹部からみれば財政圧迫の要因にみえがちである一方、非正規職員からすれば「任用期間」は会計年度に限定されるため継続雇用への不

安が生じている。制度的には「消費生活相談員」も同制度の適用対象者で、なり手不足が懸念されている。自治体職員の採用について、「契約」ではなく「任用」という用語が使用されている点にも注意したい。対等当事者の合意を「契約」といい、人のある役目につかせ使うとき「任用」という。

2、「ふるさと創世」と「地方創世」

「ふるさと創世」は、昭和63（1988）年から平成元（1989）年度実施の政府事業。総理大臣竹下登。各自治体に地方振興のため一律1億円を交付した。その使徒に政府は一切関与せず、各

自治体に活用方法はすべてまかされた。初代地方創世大臣・石破茂は、『日本列島創世論』で、竹下に無駄使いではないかと質問したところ、竹下は「それは違うんだわね、これによってその地域の知恵と力が分かる」と返事したと書いている。

「地方創世」は、平成26（2014）年9月3日の第2次安倍政権発足時から使用されはじめた用語。別名「ローカル・アベノミクス」。各自治体に、「地方創世」のための戦略と政策をつくらせ、政府が評価できると判断した取り組みには予算をつけるといったもの。「まち・ひと・しごと創世事業」というときには、この事業を指す。

政治学者・平井一臣は、編著『つながらる政治学』で、地方議員として

活動を積んで国会議員となり田中派に属した竹下登と三世議員で福田派に属した安倍晋三のスタンスの相違が「ふるさと」と「地方」の名付けた方のちがいに反映されているのではないかとする。

3、配偶者居住権

法定相続の場合、配偶者の相続割合は二分の一。そのため配偶者が自宅を相続できず、それを手放し、転居せざるをえない例が少なくなかった。配偶者以外の者に自宅を相続させる旨の遺言がある場合にも、自宅を相続した相続人から立ち退きを求められると配偶者は同じく立ち退かざるをえなかった。こうした結果は高齢の配偶者に精神的・肉体的苦痛

を与える。それを避けるため「配偶者居住権」制度が創設された（民法1028条第1項、同1029条）。配偶者居住権は相続開始時に当該建物に居住していた配偶者に認められる権利で、他の場所に居住していたときには成立しない。当該建物を相続時に配偶者以外の者と共有している場合にも認められない。配偶者居住権は終身存続し、建物の使用料は発生しない。

配偶者居住権は、相続権発生によつて、自動的に成立するわけではなく、遺産分割・遺贈・死因贈与、家庭裁判所の決定によつて成立する。それまでは自動的に成立する「短期居住権」によつて配偶者の居住権を保障する仕組みになっている。

（春秋）

問1 次の花の「花言葉」を書け (例: ツクシイバラ=素朴な愛)

- ① 梅 ()
- ② 桜 ()
- ③ ツツジ ()
- ④ 山桜 ()
- ⑤ リュウキンカ ()

問2 「縁」を使った熟語を書け (例: 縁談)

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()

問3 鮎料理の名前を書け (例: 塩焼き)

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()

問4 次の文書は正しいか誤りか。正しいときには○を、誤っているときには

×をつけよ (例: 参議院議員の被選挙権は30歳からである。○)

- ① 参議院議員の任期は6年である ()
- ② 「三権の長」は、総理大臣、最高裁長官、衆議院議長の三職をいう ()
- ③ 衆議院選挙と参議院選挙が、同時に、実施されているときには(衆参同時選挙)、国会は存在しないことになる ()
- ④ 参議院の英語表記は、'Upper House'である ()
- ⑤ 参議院は、アメリカの上院を参考にして、創設された ()

問5 熊本県内にある城跡をあげよ (例: 麦島城跡)

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()

※答え合わせは次号でおこないます。前回の答え合わせは74頁で。

くまがわ春秋歌壇

いもご短歌会

アベシンゾウ芸能人と会食のニュース流しぬ支持率ねらいで
「嘘つくな」「帰れ」の怒号飛び交いぬ 辺野古移設に触れざるアベに

柳原 三男

草花を摘みつつ野道を歩みゆき花束つくりて初夏を楽しむ
散歩道その名も知らぬ雑草を花束にして夫に渡しぬ

坂本 ケイ

半世紀住みたる家を手放すに夫の資料もごみとなりゆく
トラックに積まれてピアノ出てゆくを見送りたれば涙にじみ来

上田 廸子

片時も緑絶やさぬ竹落葉 ひっそりと落つひらひらと落つ
身振りにて読んでとせがむ一歳児 天道虫の写真絵本を

宮川しのぶ

マス席に椅子を持ち込みトランプの※お髭の塵を払うや宰相
トランプが先ずゆくべきは被爆の地ゆめゆめ相撲であるはずはなし

※お髭の塵を払う||上役に媚びへつらうこと 上田 精一

編集後記

★坂本町から日本最古の恐竜の骨が出たことは大きな話題になったが、その周辺の3つの山を利用した壮大なイベントが開催されると聞き、驚いた。つる詳子さんの「応援に来て下さい！ やつちろドラゴントレイル」(8頁)に紹介があるとおり、応援が選手たちの糧になるらしいので、ぜひお出かけいただきたい。★たびたび本誌で紹介している「球磨川ツクシイバラの会」の活動が「熊日緑のリボン賞」を受賞。会長の桑原史佳さんの一文(6頁)を読むと、その苦勞が垣間見える。受賞を心から喜びたい。★先月号から掲載させていた尾方保之さんの「人吉藩の借金と返済計画及び江戸経費節減計画」(40頁)を読むと、昔も様々な災害に見舞われていたようだ。そして国の財政も逼迫、地方も財政難に苦しんでいたとのこと。年金問題をはじめ財政難を抱える今の日本と姿とダブる。そして7月の選挙ではどんな結果が出るだろうか。(ま)

〒868-0015
熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部
info@hiyoshi.co.jp
電話・ファックス 0966-23-3759

インフォメーション

- ▽6月20日(木)
 - ▽人吉観光案内人協会総会(鍋屋本館)
 - ▽人吉芳音例会「黒田晋也(テノール)・小林晴美(ソプラノ)・榎本潤(ピアノ)おしゃべりコンサート」(人吉市カルチャーパレス)
 - ▽金子飛鳥(ヴァイオリン)&林正樹(ピアノ)デリシアジャパンツアー(ひとよし森のホール)
- ▽6月23日(日)
 - ▽第37回彩葉林ソフトボール大会(人吉市スポーツパレス)
 - ▽松濤館流空手道道友会練習試合(人吉市スポーツパレス)
 - ▽人吉市民体育祭「ソフトテニス」(村山公園テニスコート)
 - ▽人吉市テニス協会ミックスダブルステニス大会(田野コート)
 - ▽青井阿蘇神社国宝記念館建設チャリティー「人吉球磨歌謡フェスタ2019」(人吉市カルチャーパレス)
- ▽6月27日(木)
 - ▽人吉温泉観光協会通常総会(あゆの里)
- ▽6月30日(日)
 - ▽第47回球磨郡青年団協議会体育祭(あさぎり町免田総合グラウンド)
- ▽7月6日(土)
 - ▽八代市地域包括ケア推進住民講演会「もうすぐお盆『人生会議』で話してみよう」(やつしろハーモニーホール)

匠の技

御膳醤油

(だし入り万能しょうゆ)

・玉子かけご飯
・豆腐
・お刺身に

300ml 650円(税抜)

◆みそ煎餅 477円(税抜)

◆納豆みそ(お徳用) 300円(税抜)

◆納豆みそ 477円(税抜)

人吉散策コース 九州特産 蔵めぐり

みそ・しょうゆ蔵

資会社 釜田醸造所
マルカマ 社長 釜田元嘉頭
会長 釜田元嘉頭
社長 釜田元嘉頭

〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16
電話 (0966) 22-3164
FAX (0966) 22-3165
メール info@marukama.co.jp

たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司

人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの

アイウェア 榎

(たけだ眼科ビル内) ☎0966-23-3097

デイサービスセンター

ケアプラン作成所(任意)
(居宅介護支援事業所)

いざみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック
人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307